



平成 2 3 年社会生活基本調査結果の概要

平成 25 年 3 月 26 日

香川県政策部統計調査課

●社会生活基本調査とは

調査名：社会生活基本調査

調査日：平成23年10月20日

調査の目的：「国民の生活時間の配分」及び「自由時間等における主な活動」について調査し、国民の社会生活の実態を明らかにすることにより、各種行政施策の基礎資料を得る。（5年毎に実施）

調査実施主体：総務省統計局が都道府県、市町村を通じて実施

調査対象世帯：無作為に抽出した約8万3千世帯

（香川県は約1,500世帯）

調査対象：調査対象世帯の10歳以上の世帯員約20万人

（香川県は約3,400人）

目 次

I 生活行動に関する結果の概要	1
1 学習・自己啓発・訓練	3
(1) 1年間に「学習・自己啓発・訓練」を行った人は28万1千人、行動者率は32.0%で5年前より0.5ポイント上昇	
(2) 行動者率は「英語」などでわずかに上昇	
(3) 「英語」、「人文・社会・自然科学」は10～24歳の行動者率が上昇	
2 ボランティア活動	6
(1) 1年間に「ボランティア活動」を行った人は24万4千人、行動者率は27.8%で5年前より1.5ポイント上昇	
(2) 行動者率は「まちづくりのための活動」、「子供を対象とした活動」、「災害に関係した活動」で上昇	
(3) 「災害に関係した活動」の行動者率は全ての年齢階級で上昇	
(4) 平均行動日数は「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が最も多い	
(5) 「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入しての活動の行動者率が最も高い	
3 スポーツ	11
(1) 1年間に「スポーツ」を行った人は52万2千人、行動者率は59.5%で5年前より2.6ポイント低下	
(2) 行動者率は全体的に低下傾向、「登山・ハイキング」、「ジョギング・マラソン」などはわずかに上昇	
(3) 「登山・ハイキング」はほとんどの年齢階級で行動者率が増加	
4 趣味・娯楽	14
(1) 1年間に「趣味・娯楽」を行った人は72万3千人、行動者率は82.5%で5年前より0.4ポイント上昇	
(2) 行動者率は全体的に低下傾向、「遊園地・動植物園・水族館などの見物」、「趣味としての料理・菓子作り」はわずかに上昇	
(3) 「CDなどによる音楽鑑賞」、「DVDなどによる映画鑑賞」は45歳未満で行動者率が低下	

5 旅行・行楽 17

- (1) 1年間に「旅行・行楽」を行った人は62万人、行動者率は70.7%で5年前より1.1ポイント低下、女性の行動者率が男性を上回る
- (2) 行動者率は「観光旅行（国内）」が39.0%、「観光旅行（海外）」は4.8%となっており、「観光旅行（国内）」は4.0ポイント低下、「観光旅行（海外）」及び「行楽（日帰り）」がともに1.0ポイント低下
- (3) 「観光旅行（海外）」の行動者率は男性が65～74歳で最も高く、女性は35～44歳で最も高い

II 生活時間に関する結果の概要 21

1 1日の生活時間の配分 23

- (1) 概観
 - ① 週全体では、5年前より1次活動時間が増加、2次活動時間及び3次活動時間は減少
 - ② 1次活動時間、2次活動時間及び3次活動時間の男女の差は縮小
 - ③ 曜日別では、5年前より平日及び土曜日で1次活動時間が増加、2次活動時間及び3次活動時間は減少
- (2) 年齢階級別にみる生活時間
 - ① 2次活動時間は男性は25～34歳、女性は35～44歳が最も長い
 - ② 男性は45～64歳で、女性は10～24歳で2次活動時間が大幅に増加
- (3) 時間帯別にみる行動者率
平日に3次活動の行動者率が5割を超えるのは20時から22時までの間

2 1次活動 29

- (1) 睡眠
 - ① 睡眠時間は45～54歳で最も短い
 - ② 睡眠時間は15～24歳、45～74歳で減少
 - ③ 睡眠時間は男女ともに平日、土曜日が増加、日曜日は減少
 - ④ 睡眠時間は過去25年間で男女ともに減少傾向
- (2) 身の回りの用事
 - ① 身の回りの用事の時間は全ての年齢階級で女性の方が長い
 - ② 身の回りの用事の時間は10～14歳及び25～34歳を除く全ての年齢階級で増加
 - ③ 身の回りの用事の時間は過去20年間で男性が11分、女性は10分増加
- (3) 食事
 - ① 食事時間は高齢層で長い
 - ② 本県の食事時間は全国で5番目に短い

- ③ 食事時間は一部の年齢階級を除き、5年前より減少
- ④ 食事時間は過去25年間で男女ともにおおむね横ばい

3 2次活動 36

(1) 仕事

- ① 仕事時間は全国で3番目に長く、特に男性は長い
- ② 仕事時間は5年前より男性が増加、女性は減少
- ③ 仕事時間は平日、日曜日が増加、土曜日は減少
- ④ 「正規の職員・従業員」の仕事時間が増加
- ⑤ 仕事時間は引き続き増加傾向

(2) 家事関連

- ① 家事関連時間は55～64歳の女性が最も長い
- ② 家事関連時間は5年前より男性がほとんどの年齢階級で増加
- ③ 本県の家事関連時間は全国的にみて長い
- ④ 家事関連時間は男女とも全ての曜日で増加
- ⑤ 家事関連時間の男女差は依然として大きい
- ⑥ 家事関連時間のうち家事時間は45～64歳で男女差が大きい
- ⑦ 育児時間は35～44歳の女性で大幅に増加

4 3次活動 46

(1) 休養等自由時間活動

- ① 休養等自由時間活動の時間は15～34歳、45～54歳を除く全ての年齢階級で男性が女性より長い
- ② 休養等自由時間活動の時間は25～44歳、75歳以上を除く全ての年齢階級で5年前より減少

(2) 積極的自由時間活動

- ① 積極的自由時間活動の時間は男性が女性より長い
- ② 積極的自由時間活動の時間は65～74歳を除く全ての年齢階級で5年前より減少

(3) 交際・付き合い

- ① 交際・付き合いの時間は5年前よりほとんどの年齢階級で減少
- ② 交際・付き合いの時間は全国的にみて短い

付録 都道府県別にみた生活時間・平均時刻 (総務省生活時間に関する結果「結果の概要」からの抜粋) 51

(1) 1次活動

睡眠時間が長い東北地方

(2) 2次活動

- ① 有業者の仕事時間が長いのは、男性は鹿児島県、女性は大分県
- ② 通勤・通学時間が長い関東大都市圏
- ③ 6歳未満の子供がいる夫（夫婦と子供の世帯）の家事関連時間は秋田県が最も長い

(3) 3次活動

テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間が長い北海道

(4) 地域別にみた主な行動の平均時刻

- ① 平日の就寝時刻が最も早いのは青森県及び秋田県で、最も遅い東京都との差は1時間6分
- ② 平日の仕事からの帰宅時間が最も遅いのは東京都で、最も早い徳島県との差は1時間43分

【用語と分類】

I 生活行動関係

1 過去1年間に行った活動

この調査では、「学習・自己啓発・訓練」、「ボランティア活動」、「スポーツ」、「趣味・娯楽」及び「旅行・行楽」について、過去1年間の活動状況をそれぞれの種類別に「行ったか否か」、また、行った場合には、1年間の活動の「頻度」、「目的」、「方法」などを調査した。

(1) 学習・自己啓発・訓練

個人の自由時間の中で行う学習、自己啓発や訓練をいう。社会人の職場研修や、児童・生徒・学生が学業（授業、予習、復習）として行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

(2) ボランティア活動

報酬を目的としないで、自分の労力、技術、時間を提供して地域社会や個人・団体の福祉のために行っている活動をいう。

(3) スポーツ

余暇活動として行う「スポーツ」をいう。職業スポーツ選手が仕事として行うものや、学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

(4) 趣味・娯楽

仕事、学業、家事などのように義務的に行う活動ではなく、個人の自由時間の中で行うものをいう。

(5) 旅行・行楽

旅行は、1泊2日以上にわたって行う全ての旅行をいい、日帰りの旅行を除く。行楽は、日常生活圏を離れ、半日以上かけて行う日帰りのものをいい、夜行日帰りを含む。

2 行動者数、行動者率、平均行動日数、平均時間

(1) 行動者数

過去1年間に該当する種類の活動を行った人（10歳以上）の数。なお、数値は母集団における行動者数の推定値である。

(2) 行動者率

10歳以上人口に占める行動者数の割合。次の式により算出した。

$$\text{行動者率} = \text{行動者数} \div \text{各属性の10歳以上人口} \times 100 (\%)$$

(3) 平均行動日数

行動者について平均した過去1年間の行動日数。各行動の「総数」及び「その他」を除く種類ごとに、頻度別の行動者数に基づき、次の式により算出した（「旅行・行楽」は除く。）。

$$\text{平均行動日数} = \frac{\sum (\text{頻度階級の中央値} \times \text{頻度階級の行動者数})}{\sum \text{頻度階級の行動者数}}$$

なお、各頻度階級の中央値は次の値とした。

頻度階級	中央値
年に1～4日	2.5日
年に5～9日	7.0
年に10～19日（月に1日）	14.5
年に20～39日（月に2～3日）	29.5
年に40～99日（週に1日）	69.5
年に100～199日（週に2～3日）	149.5
年に200日以上（週に4日以上）	282.5

(4) 平均時間

行動者について平均した過去1年間の1日当たりの行動時間（ボランティア活動のみ）。

II 生活時間関係

1 行動の種類

1日の行動を20種類に分類し、時間帯（15分単位）別の行動状況（同時に2種類以上の行動をした場合は、主なものを1つ）を調査した。

20種類の行動は大きく3つの活動にまとめ、**1次活動**（睡眠、食事など生理的に必要な活動）、**2次活動**（仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動）及び**3次活動**（1次活動、2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動）とした。

区 分	説 明
1次活動	睡眠 身の回りの用事 食事
2次活動	通勤・通学 仕事（収入を伴う仕事） 学業（学生が学校の授業やそれに関連して行う学習活動） 家事 介護・看護 育児 買い物
3次活動	移動（通勤・通学を除く。） テレビ・ラジオ・新聞・雑誌 休養・くつろぎ 学習・研究（学業以外） 趣味・娯楽 スポーツ ボランティア活動・社会参加活動 交際・付き合い 受診・療養 その他

また、必要に応じて次の区分を用いている。

区 分	説 明
家事関連	家事、介護・看護、育児及び買い物
休養等自由時間活動	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎ
積極的自由時間活動	学習・研究（学業以外）、趣味・娯楽、スポーツ及びボランティア活動・社会参加活動
仕事等	通勤・通学、仕事及び学業

2 平均時間

行動の種類別平均時間は、一人1日当たりの平均行動時間数で、次の種類がある。

区 分	説 明
総平均	該当する種類の行動をしなかった人を含む全員についての平均
行動者平均	該当する種類の行動をした人のみについての平均

3 行動者率

該当する種類の行動をした人の割合。

$$\frac{\text{当該行動者数}}{\text{人 口}} \times 100 (\%)$$

I 生活行動に関する結果の概要

—利用上の主な用語—

- 行動者数…………… 過去1年間に該当する種類の活動を行った人（10歳以上）の数
- 行動者率…………… 10歳以上人口に占める行動者数の割合（%）
- 平均行動日数…………… 行動者について平均した過去1年間の行動日数

—利用上の注意—

- 1 ポイント差、構成比等の比率は、表章数値から算出している。
- 2 本文中の各活動の種類名については、一部省略している。
- 3 数値、人数は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

1 学習・自己啓発・訓練

(1) 1年間に「学習・自己啓発・訓練」を行った人は28万1千人、行動者率は32.0%で5年前より0.5ポイント上昇

「学習・自己啓発・訓練」について、過去1年間（平成22年10月20日～23年10月19日。以下同じ。）に何らかの種類の活動を行った人（10歳以上）の数（行動者数。以下同じ。）は28万1千人で、10歳以上人口に占める割合（行動者率。以下同じ。）は32.0%となっている。男女別にみると、行動者数は男性が13万1千人、女性が15万人となっており、行動者率は男性が30.9%、女性が33.1%で、女性が男性より2.2ポイント高くなっている。（図1-1）

行動者率は平成18年と比べると、0.5ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が2.3ポイント上昇、女性が1.1ポイント低下している。

年齢階級別にみると、35～44歳で6.8ポイントの大幅な低下があるが、他の年齢階級では上昇、特に10～14歳では8.5ポイント上昇している。（図1-2）

男女別にみると、15～24歳、65～74歳を除く全ての年齢階級で女性の方が高くなっている。（図1-3）

図1-1 「学習・自己啓発・訓練」の行動者率
（平成18年、23年）

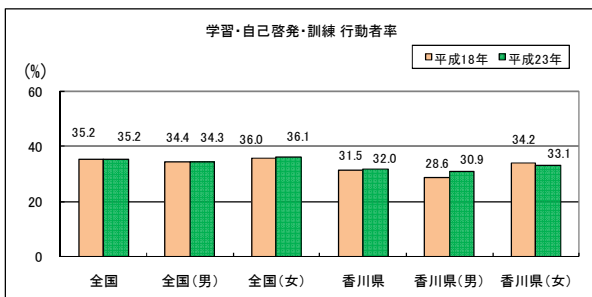


図1-2 「学習・自己啓発・訓練」の年齢
階級別行動者率（平成18年、23年）

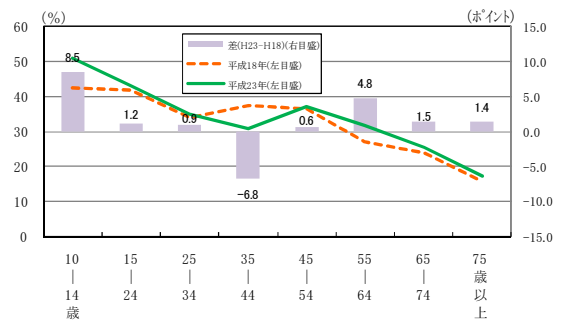


図1-3 「学習・自己啓発・訓練」の男女、
年齢階級別行動者率（平成18年、23年）

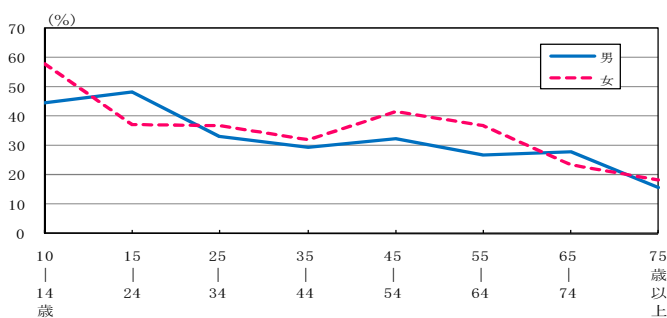
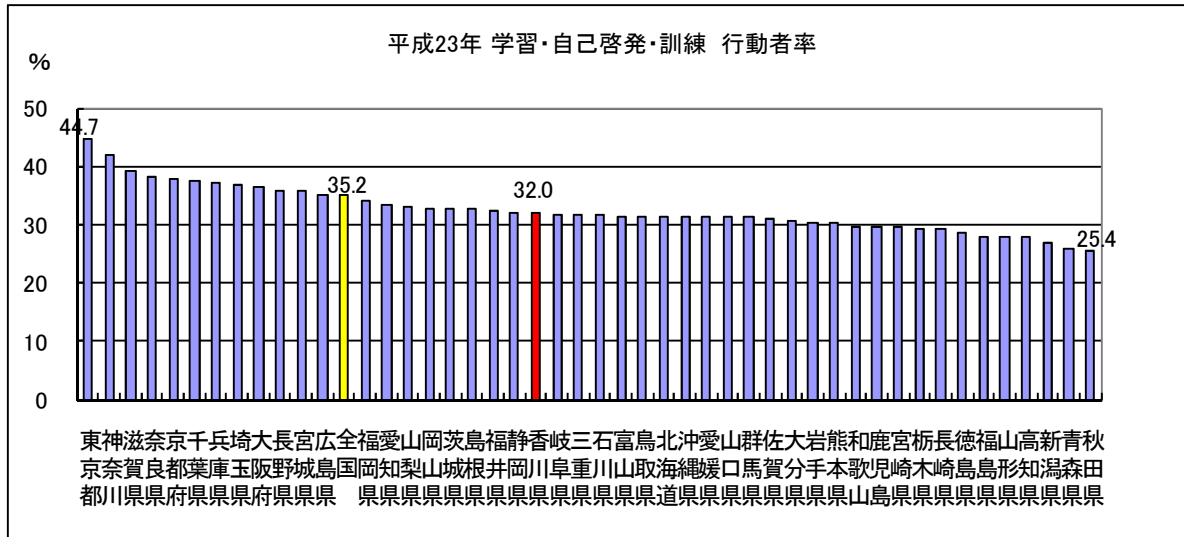


図1-4 都道府県別「学習・自己啓発・訓練」の行動者率



注)「学習・自己啓発・訓練」は、社会人の職場研修や、児童・生徒・学生が学業（授業、予習、復習）として行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

(2) 行動者率は「英語」などでわずかに上昇

「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を種類別にみると、「パソコンなどの情報処理」が9.9%と最も高く、次いで「芸術・文化」が9.2%などとなっている。これを平成18年と比べると、「英語」が1.6ポイント上昇、「商業実務・ビジネス関係」が2.0ポイント、「芸術・文化」が1.4ポイント低下などとなっている。(図1-5)

男女別にみると、男性は「パソコンなどの情報処理」が12.1%と最も高く、次いで「英語」が8.3%、「人文・社会・自然科学」が8.2%、「芸術・文化」が6.8%、などとなっている。女性は「家政・家事」が12.5%と最も高く、次いで「芸術・文化」が11.5%、「パソコンなどの情報処理」が7.8%、「英語」が6.8%などとなっている。(図1-6)

図1-5 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率（平成18年、23年）

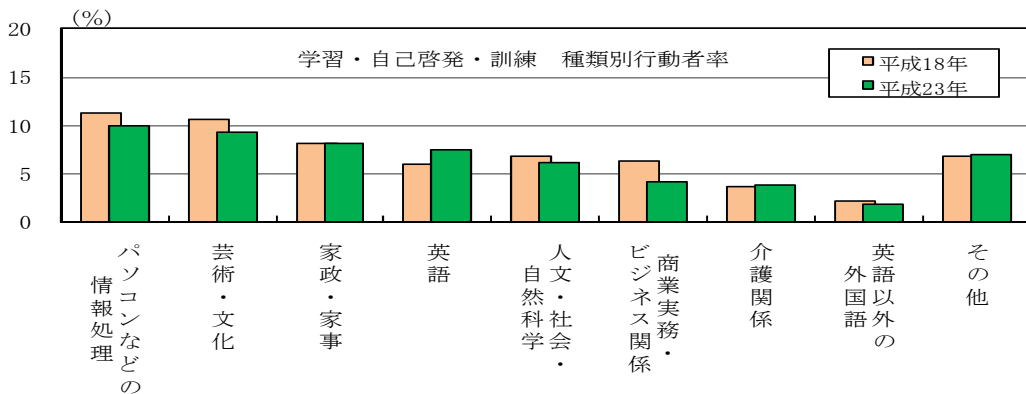
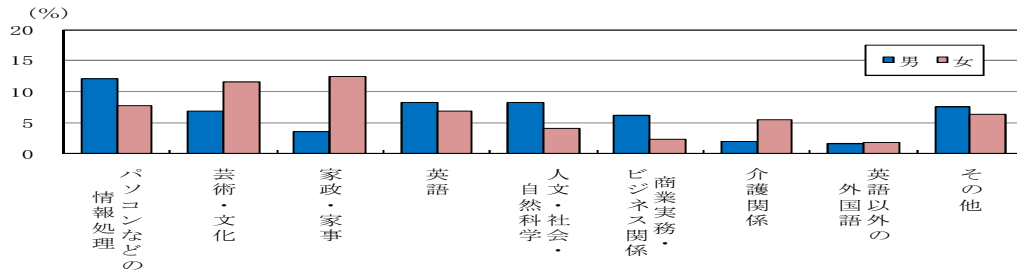


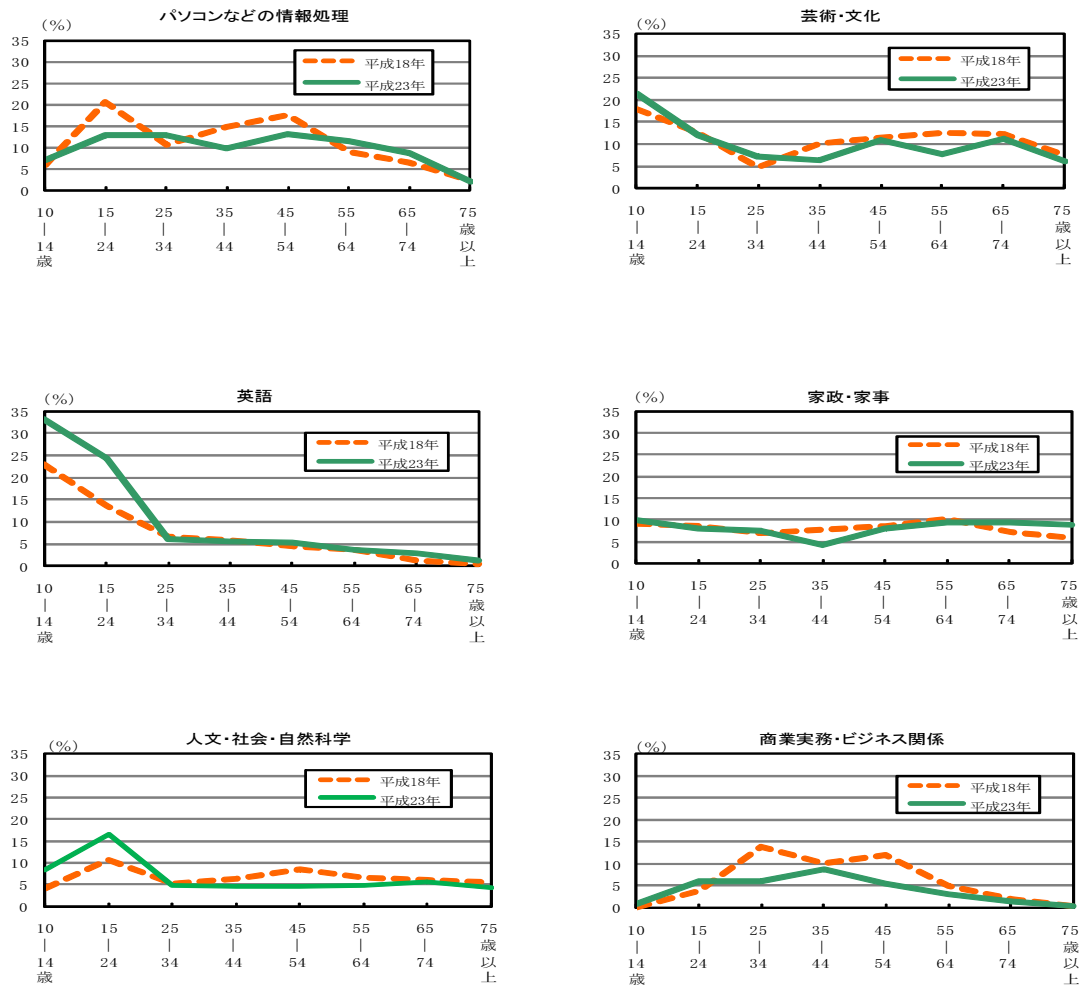
図1-6 「学習・自己啓発・訓練」の種類、男女別行動者率



(3) 「英語」、「人文・社会・自然科学」は10~24歳の行動者率が上昇

「学習・自己啓発・訓練」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、「英語」、「人文・社会・自然科学」は10~24歳で、「パソコンなどの情報処理」は15~24歳で特に上昇している。55歳以上では、「パソコンなどの情報処理」、「家政・家事」で上昇し、他はおおむね低下している。25~54歳では、全ての種類でおおむね低下している。(図1-7)

図1-7 「学習・自己啓発・訓練」の主な種類、年齢階級別行動者率(平成18年、23年)



2 ボランティア活動

- (1) 1年間に「ボランティア活動」を行った人は24万4千人、行動者率は27.8%で5年前より1.5ポイント上昇

「ボランティア活動」の行動者数は24万4千人で、行動者率は27.8%となっている。男女別にみると、行動者数は男性が11万8千人、女性が12万5千人となっており、行動者率は男性が27.9%、女性が27.6%で、男性が女性より0.3ポイント高くなっている。(図2-1)

行動者率は平成18年と比べると、1.5ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が3.1ポイント上昇、女性が0.1ポイント下降している。(図2-1)

年齢階級別にみると、35～44歳が35.9%と最も高く、75歳以上が17.4%と最も低くなっている。平成18年と比べると、15～44歳、55～64歳では上昇している。(図2-2)

男女別にみると、25～44歳、55～64歳では女性の方が高く、10～24歳、45～54歳、65歳以上では男性の方が高くなっている。(図2-3)

図2-1 「ボランティア活動」の行動者率(平成18年、23年)

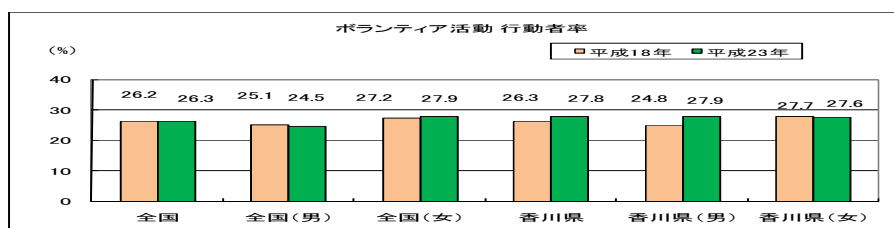


図2-2 「ボランティア活動」の年齢階級別行動者率(平成18年、23年)

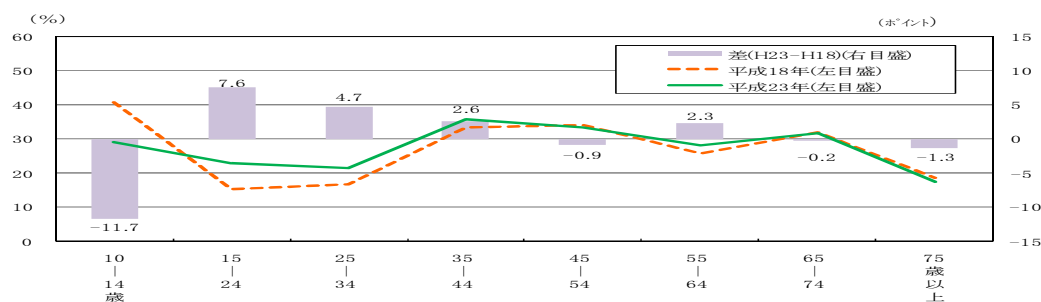


図2-3 「ボランティア活動」の男女、年齢階級別行動者率

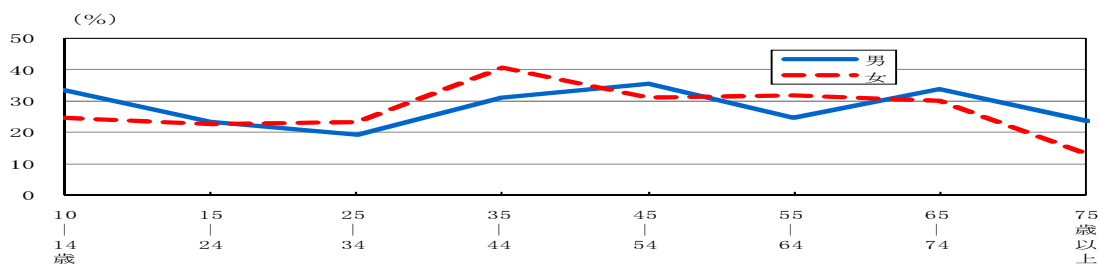
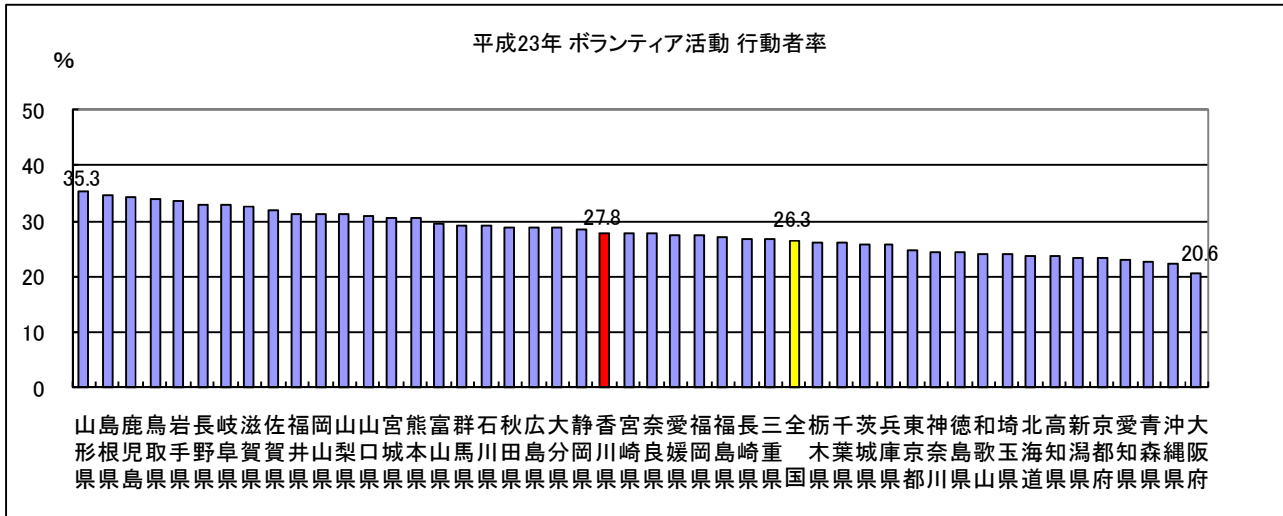


図2-4 都道府県別「ボランティア活動」の行動者率



(2) 行動者率は「まちづくりのための活動」、「子供を対象とした活動」、「災害に関係した活動」で上昇

「ボランティア活動」の行動者率を種類別にみると、「まちづくりのための活動」が14.1%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が8.8%などとなっている。これを平成18年と比べると、前者は1.8ポイント、後者が3ポイント上昇している。また、「災害に関係した活動」が2.5ポイント上昇している。(図2-5)

男女別にみると、「まちづくりのための活動」が男性15.8%、女性12.5%とともに最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が男性6.4%、女性11.0%とともに高くなっている。(図2-6)

図2-5 「ボランティア活動」の種類別行動者率（平成18年、23年）

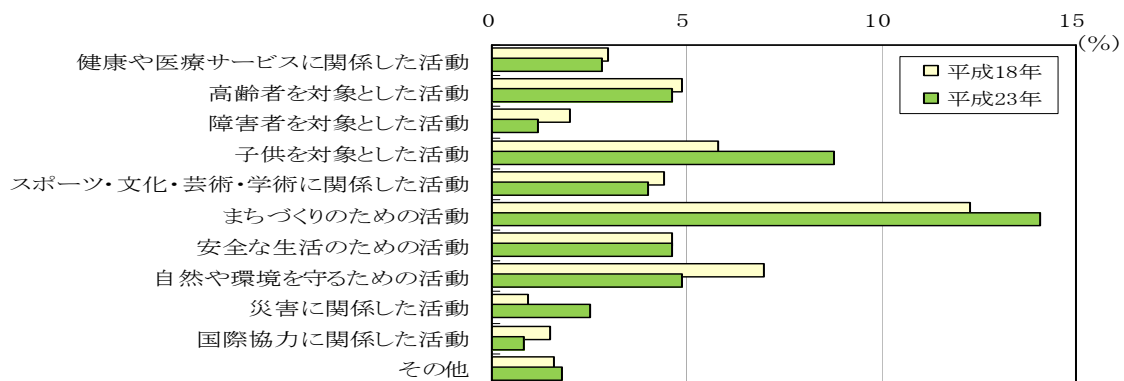
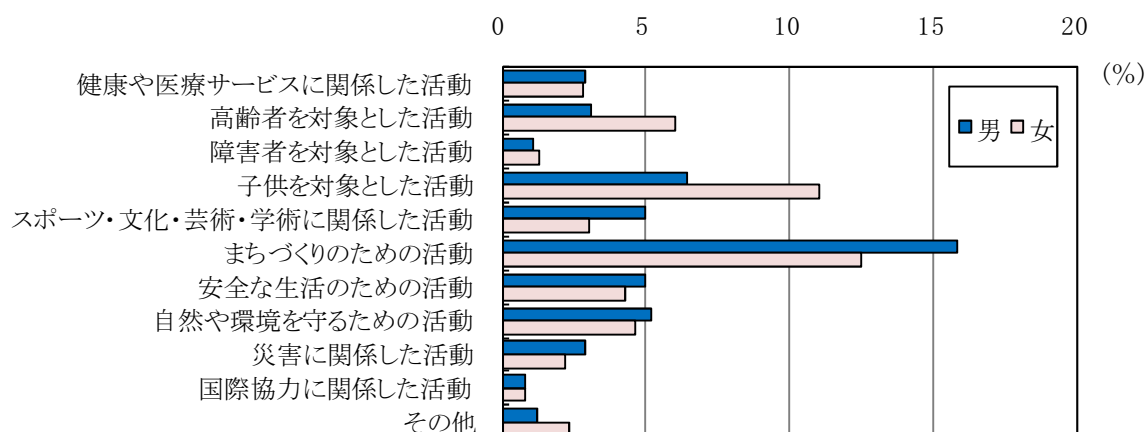


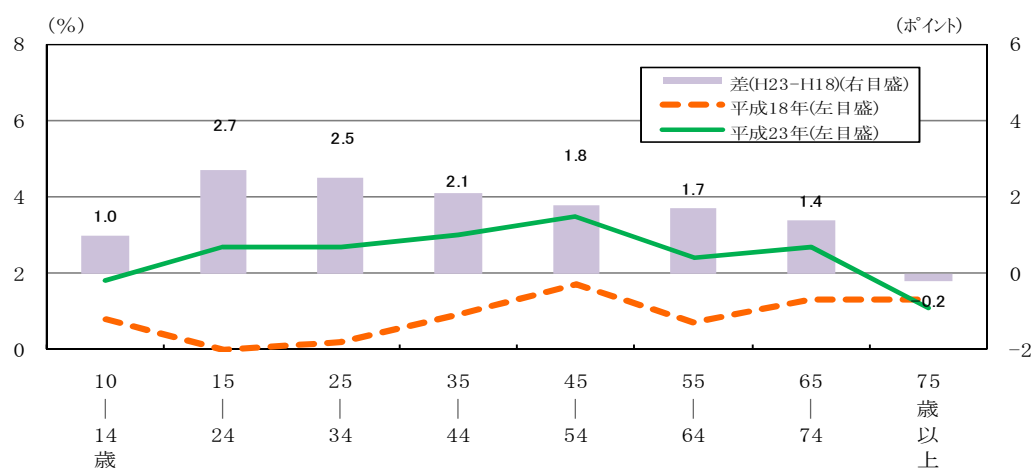
図2-6 「ボランティア活動」の種類、男女別行動者率



(3) 「災害に関係した活動」の行動者率は全ての年齢階級で上昇

「災害に関係した活動」の行動者率を年齢階級別に平成18年と比べると、75歳以上を除く全ての年齢階級で上昇しており、特に15～44歳で2ポイント以上上昇している。(図2-7)

図2-7 「災害に関係した活動」の年齢階級別行動者率(平成18年、23年)

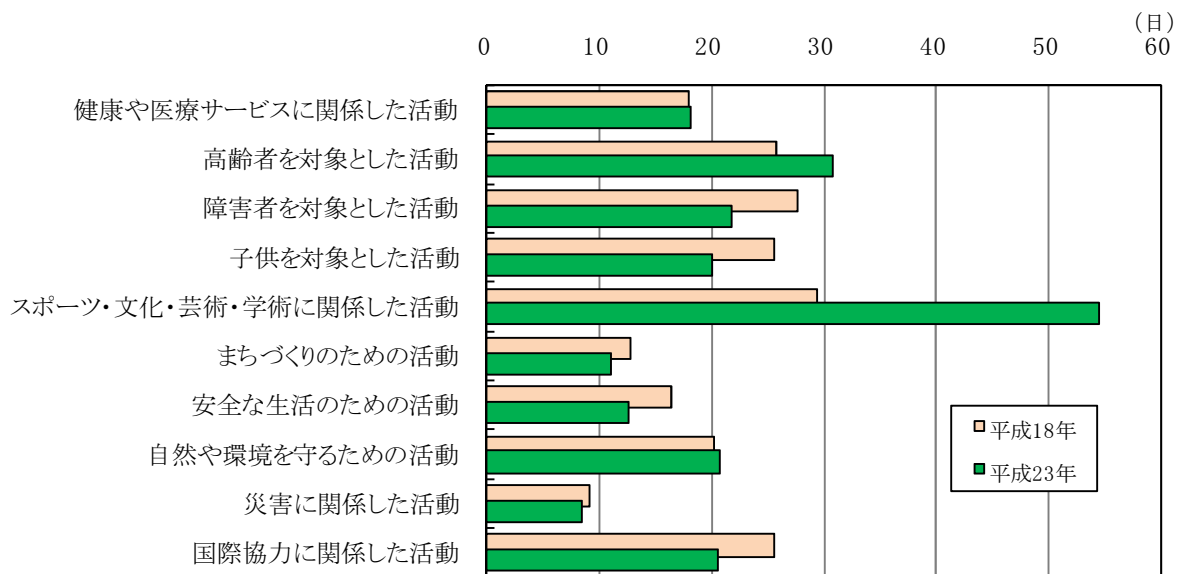


(4) 平均行動日数は「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が最も多い

行動者について平均した過去1年間の行動日数(平均行動日数。以下同じ。)を種類別にみると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が54.5日と最も多く、次いで「高齢者を対象とした活動」が30.8日、「障害者を対象とした活動」が21.7日などとなっており、「災害に関係した活動」が8.4日と最も少なくなっている。

平成18年と比べると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が25.1日増加、「高齢者を対象とした活動」が5日増加などとなり、「障害者を対象とした活動」が6日減少、「子どもを対象とした活動」が5.5日減少などとなっている。(図2-8)

図2-8 「ボランティア活動」の種類別平均行動日数（平成18年、23年）

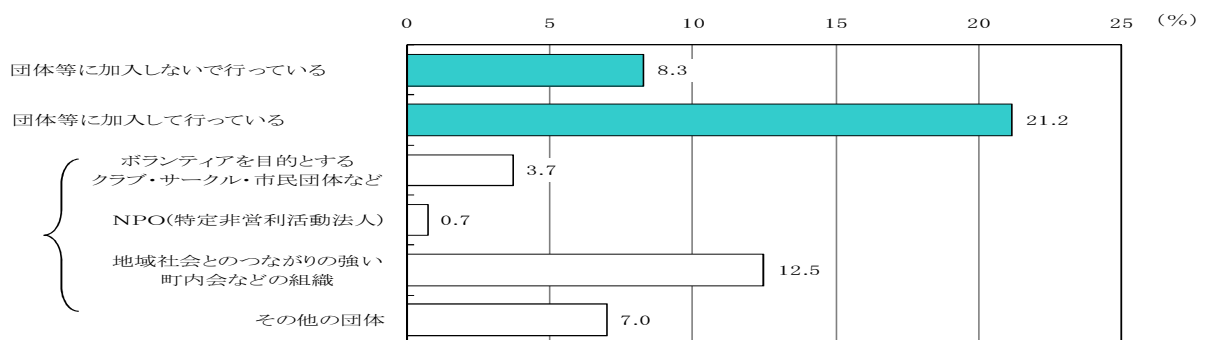


(5) 「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に加入しての活動の行動者率が最も高い

「ボランティア活動」の行動者率を形態別にみると、団体等に参加して行っている活動が、参加しないで行っている活動よりも高くなっている。団体等に参加して行っている活動を形態別にみると、「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に参加して行っている活動が最も高く、次いで「その他の団体」に参加して行っている活動となっている。（図2-9）

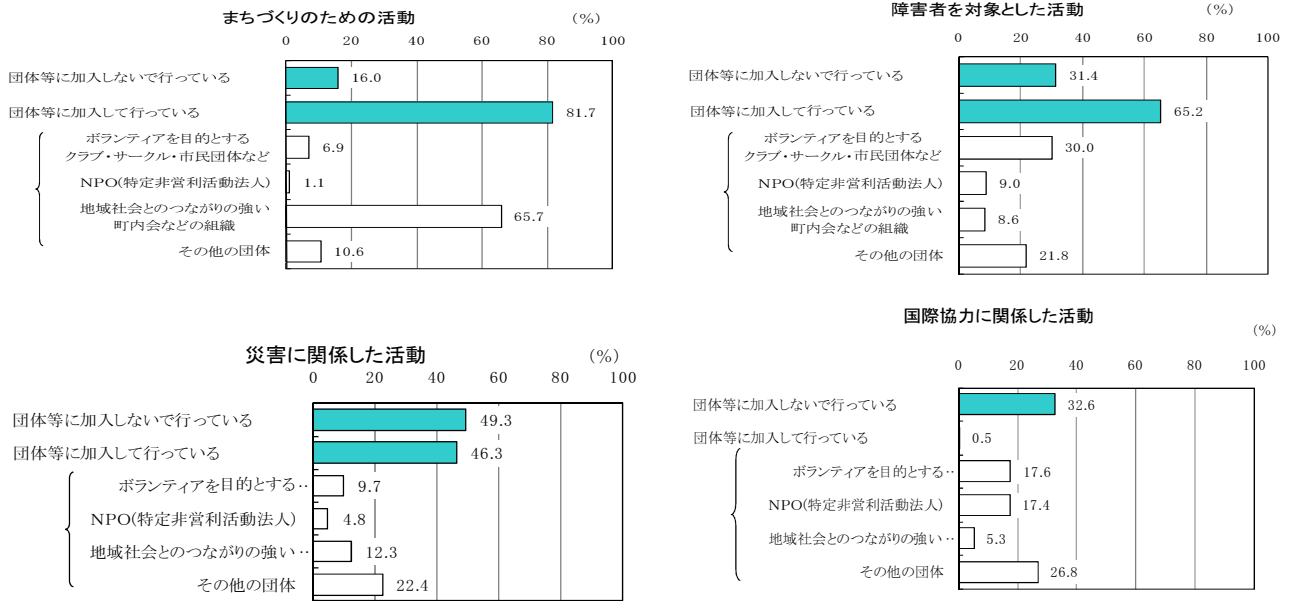
行動者の割合を種類、形態別にみると、「ボランティアを目的とするクラブ・サークル・市民団体など」に参加しての活動は、「障害者を対象とした活動」が、「NPO（特定非営利活動法人）」に参加しての活動は「国際協力に関係した活動」が、「地域社会とのつながりの強い町内会などの組織」に参加しての活動は「まちづくりのための活動」が最も高くなっている。また、「災害に関係した活動」については団体等に参加しないで行っている活動の割合が最も高くなっている。（図2-10）

図2-9 「ボランティア活動」の形態別行動者率



注) 複数回答あり。

図2-10 「ボランティア活動」の主な種類、形態別行動者の割合



注) 行動者の割合は、種類ごとの行動者数（活動の形態が不詳のものを含む）に占める割合。
複数回答有。

3 スポーツ

(1) 1年間に「スポーツ」を行った人は52万2千人、行動者率は59.5%で5年前より2.6ポイント低下

「スポーツ」の行動者数は52万2千人で、行動者率は59.5%となっている。男女別にみると、行動者数は男性が27万2千人、女性が25万人となっており、行動者率は男性が64.3%、女性が55.0%で、男性が女性より9.3ポイント高くなっている。(図3-1)

行動者率は平成18年と比べると、2.6ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が2.8ポイント低下、女性が2.6ポイント低下している。(図3-1)

年齢階級別にみると、10～14歳が86.8%と最も高く、年齢が高くなるにつれておおむね低下している。平成18年と比べると、35歳～44歳を除き65歳未満は低下、65歳以上は上昇している。(図3-2)

男女別にみると、全ての年齢階級で男性の方が高くなっており、10歳代、35歳～44歳、70歳以上で特に差が大きくなっている。(図3-3)

図3-1 「スポーツ」行動者率(平成18年、23年)

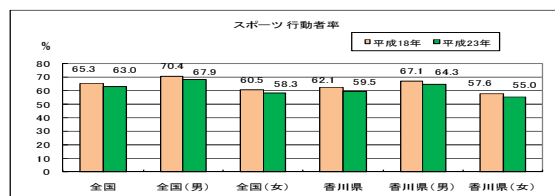


図3-2 「スポーツ」の年齢階級別行動者率(平成18年、23年)

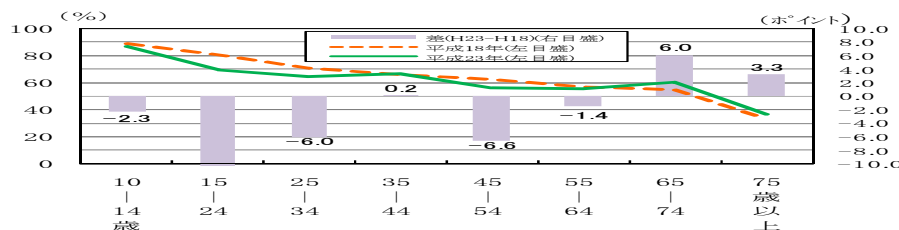
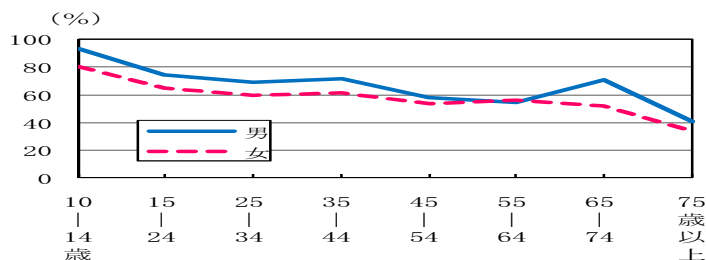


図3-3 「スポーツ」の男女、年齢階級別行動者率



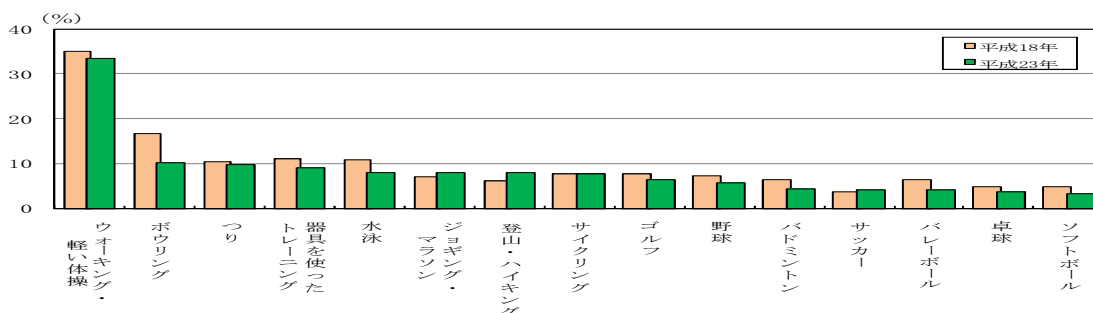
注) 「スポーツ」は、職業スポーツ選手が仕事として行うものや、学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

(2) 「ジョギング・マラソン」「登山・ハイキング」などは僅かに行動者率が上昇

「スポーツ」の行動者率を種類別にみると、「ウォーキング・軽い体操」が 33.4%と最も高く、次いで「ボウリング」が10.3%などとなっている。これを平成18年と比べると、「ボウリング」が6.3ポイント低下、「水泳」が2.8ポイント低下、「バレーボール」が2.2ポイント低下などとなっており、ほとんどの種類で低下している。一方、「登山・ハイキング」、「ジョギング・マラソン」、「サッカー」は、それぞれ1.7ポイント、0.8ポイント、0.5ポイントと僅かに上昇している。(図3-4)

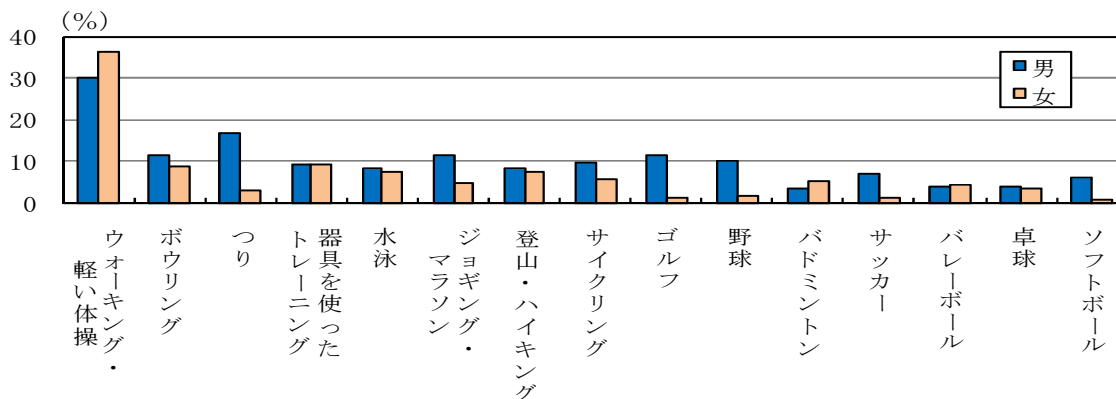
男女別にみると、男女共に「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、次いで「ボウリング」となっており、以下、男性は「つり」、女性は「器具を使ったトレーニング」などとなっている。(図3-5)

図3-4 「スポーツ」の種類別行動者率(平成18年、23年)



注) 行動者率が3%以上の種類を表章。

図3-5 「スポーツ」の種類、男女別行動者率

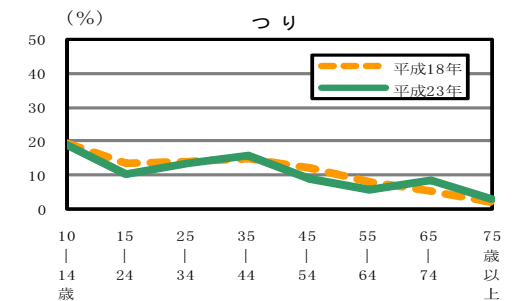
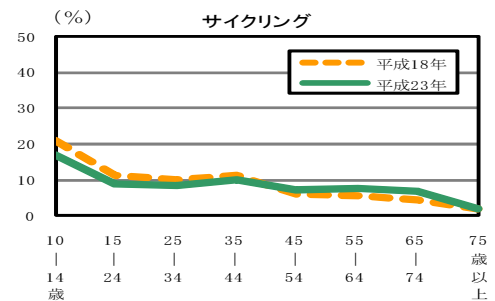
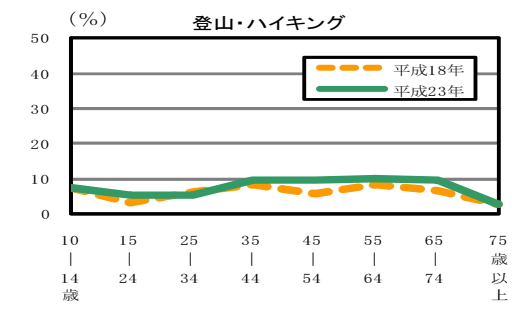
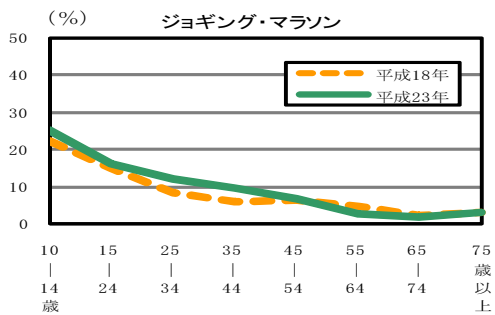
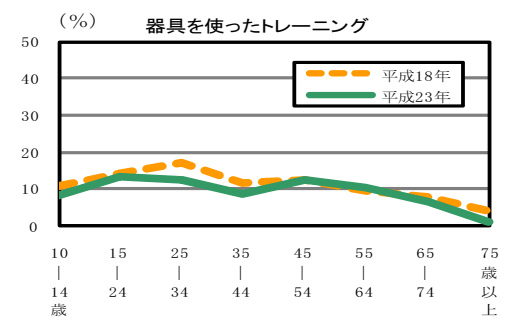
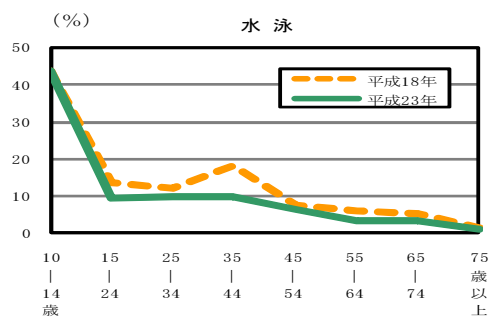
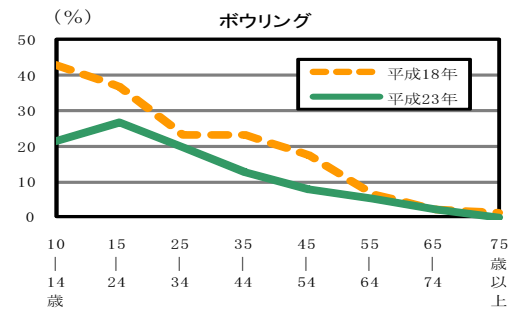
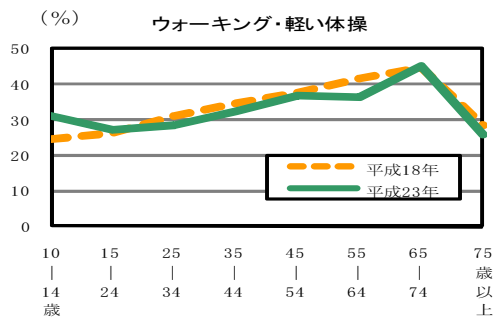


注) 行動者率が3%以上の種類を表章。

(3) 「登山・ハイキング」はほとんどの年齢階級で行動者率が増加

「スポーツ」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、「ウォーキング・軽い体操」は10~14歳、「登山・ハイキング」は45~54歳、「ジョギング・マラソン」は55歳未満で上昇している。また、「ボウリング」「水泳」はほぼ全ての年齢階級で行動者率が低下している。(図3-6)

図3-6 「スポーツ」の主な種類、年齢階級別行動者率（平成18年、23年）



4 趣味・娯楽

(1) 1年間に「趣味・娯楽」を行った人は72万3千人、行動者率は82.5%で5年前より0.4ポイント上昇

「趣味・娯楽」の行動者数は72万3千人で、行動者率は82.5%となっている。男女別にみると、行動者数は男性が34万5千人、女性が37万8千人となっており、行動者率は男性が81.6%、女性が83.3%で、女性が男性より1.7ポイント高くなっている。(図4-1)

行動者率は平成18年と比べると、0.4ポイント上昇している。これを男女別にみると、男性が0.2ポイント上昇、女性が0.6ポイント上昇している。(図4-1)

年齢階級別にみると、10～14歳が96.8%と最も高く、年齢が高くなるにつれて低下している。平成18年と比べると、65～74歳が特に上昇している。(図4-2)

男女別にみると、15～24歳を除き他の年齢階級では女性の方が高い。(図4-3)

図4-1 「趣味・娯楽」の行動者率(平成18年、23年)

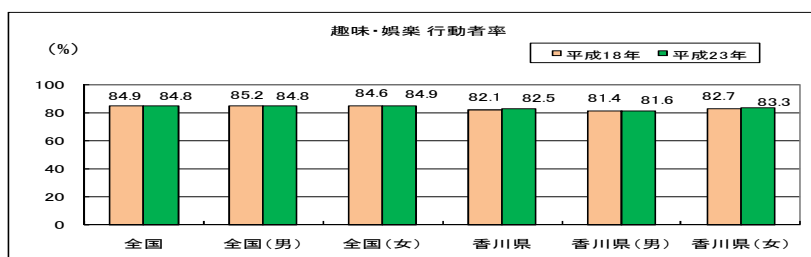


図4-2 「趣味・娯楽」の年齢階級別行動者率(平成18年、23年)

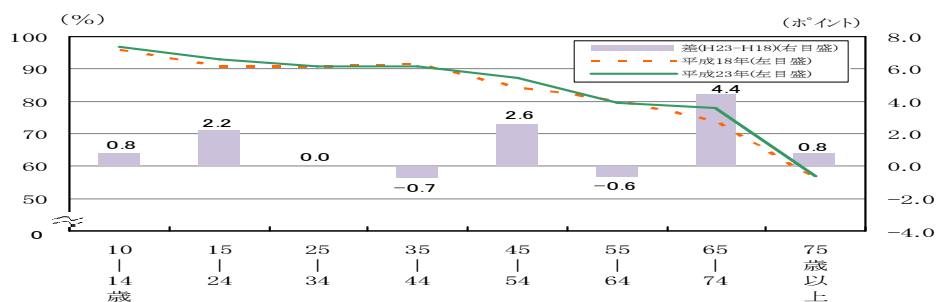


図4-3 「趣味・娯楽」の男女、年齢階級別行動者率

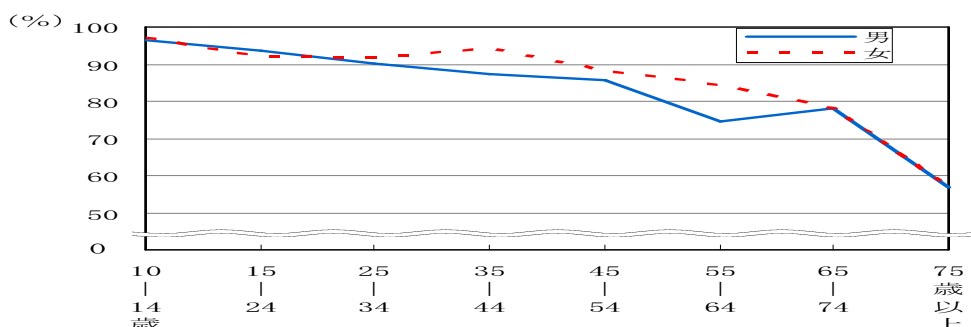
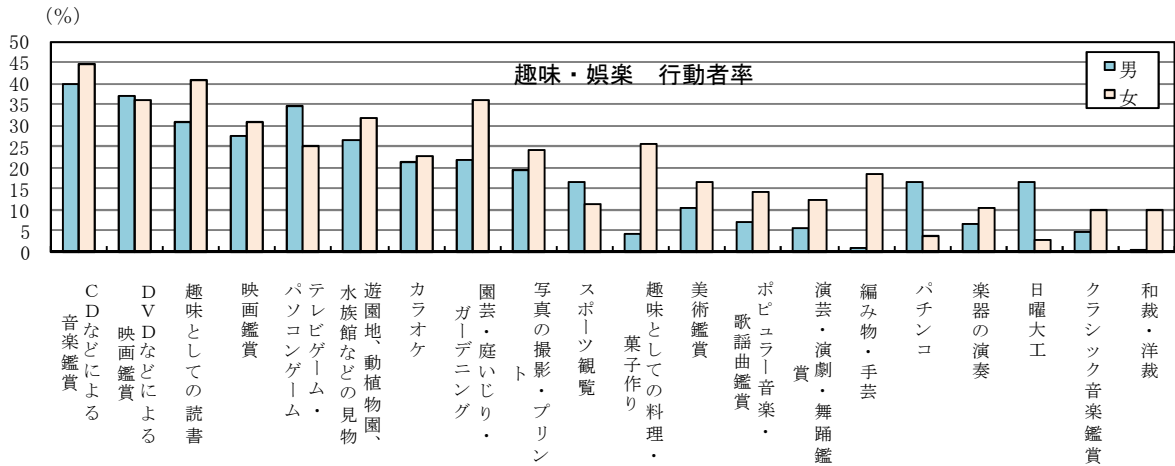


図4-6 「趣味・娯楽」の種類、男女別行動者率

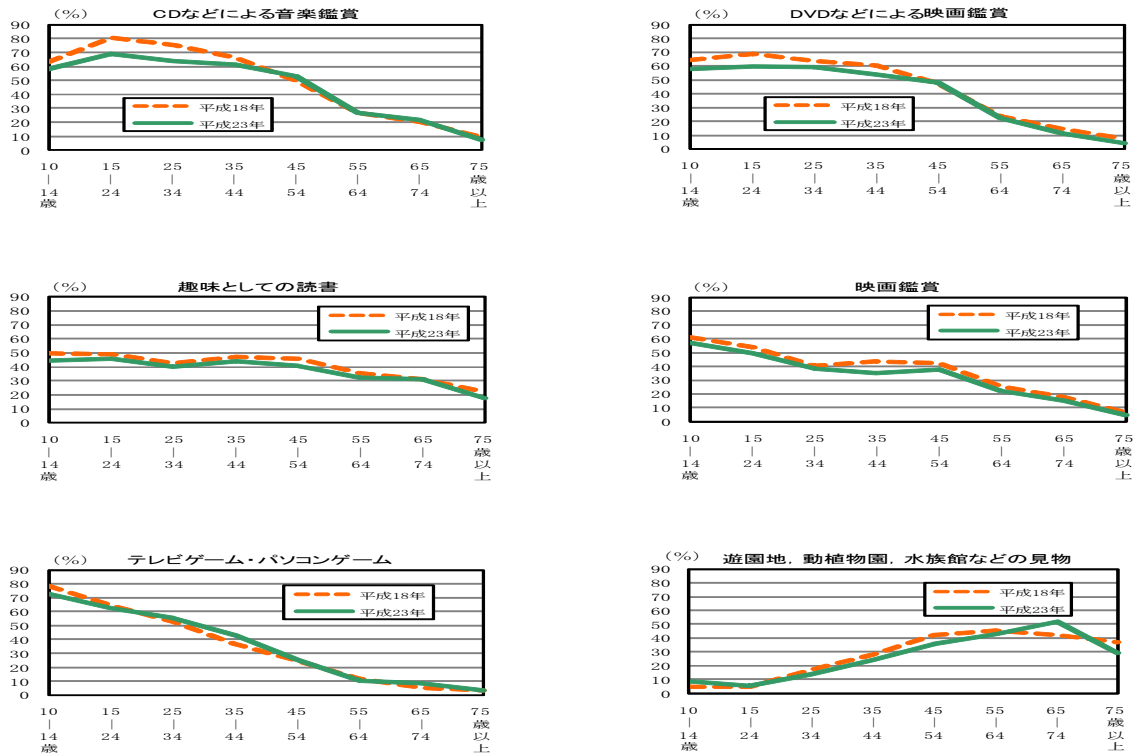


注)行動者率が上位20の「趣味・娯楽」の種類を表章。

(3) 「CDなどによる音楽鑑賞」、「DVDなどによる映画鑑賞」は45歳未満で行動者率が低下

「趣味・娯楽」の行動者率を主な種類、年齢階級別に平成18年と比べると、「テレビゲーム・パソコンゲーム」は25～44歳で上昇している。また、「CDなどによる音楽鑑賞」、「DVDなどによる映画鑑賞」は45歳未満で特に低下している。(図4-7)

図4-7 「趣味・娯楽」の主な種類、年齢階級別行動者率(平成18年、23年)



5 旅行・行楽

- (1) 1年間に「旅行・行楽」を行った人は62万人、行動者率は70.7%で5年前より1.1ポイント低下、女性の行動者率が男性を上回る

「旅行・行楽」の行動者数は62万人で、行動者率は70.7%となっている。男女別にみると、行動者数は男性が28万9千人、女性が33万1千人となっており、行動者率は男性が68.3%、女性が73.0%で、女性が男性より4.7ポイント高くなっている。(図5-1)

行動者率は平成18年と比べると、1.1ポイント低下している。これを男女別にみると、男性が1.3ポイント低下、女性が0.9ポイント低下している。(図5-1)

年齢階級別にみると、10～14歳が81.4%と最も高く、15～24歳で76.6%と大きく低下するが、25～34歳では上昇して79.9%となり、35歳以上は年齢が高くなるにつれて低下しているが、65～74歳では上昇している。(図5-2)

男女別にみると、全ての年齢階級で女性の方が高くなっており、特に15～24歳では12.3ポイントの差がある。(図5-3)

図5-1 「旅行・行楽」の行動者率（平成18年、23年）

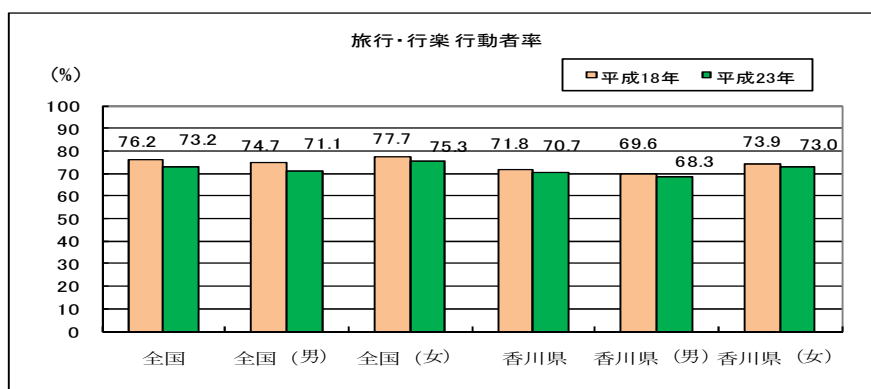


図5-2 「旅行・行楽」の年齢階級別行動者率（平成18年、23年）

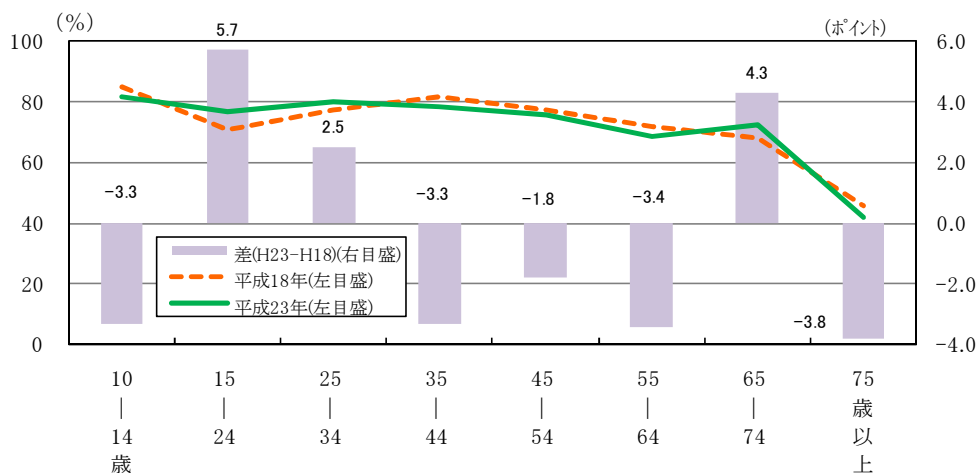


図5-3 「旅行・行楽」の男女、年齢階級別行動者率

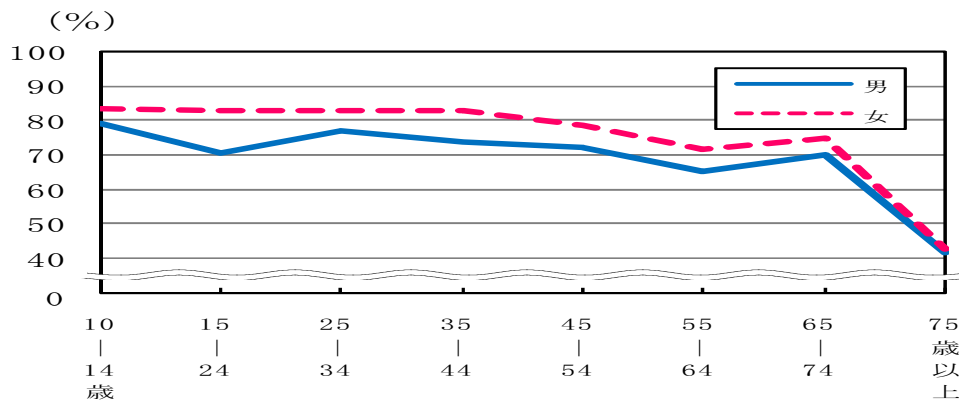
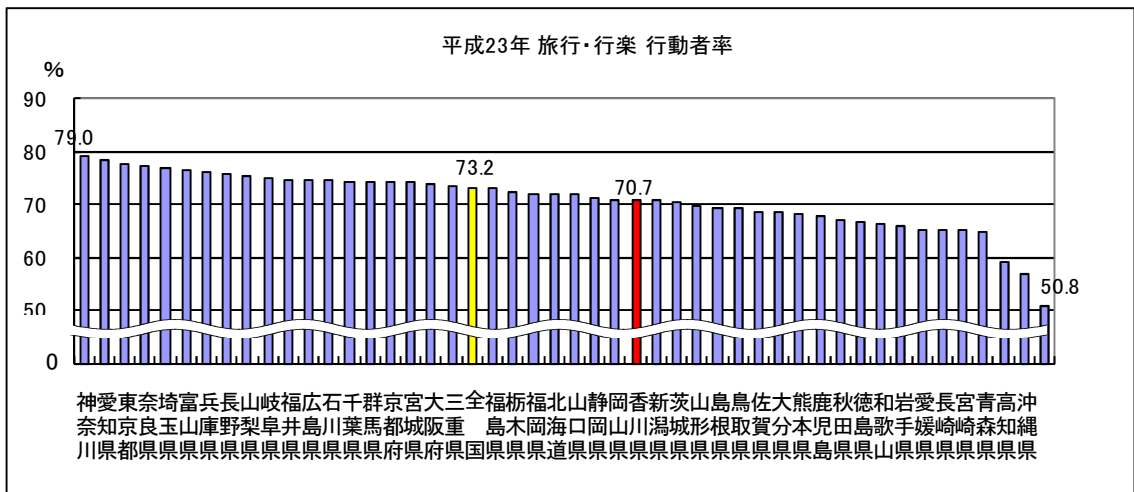


図5-4 都道府県別「旅行・行楽」の行動者率



(2) 行動者率は「観光旅行（国内）」が39.0%、「観光旅行（海外）」は4.8%となっており、「観光旅行（国内）」は4.0ポイント低下、「観光旅行（海外）」及び「行楽（日帰り）」がともに1.0ポイント低下

「旅行・行楽」の行動者率を種類別にみると、「行楽（日帰り）」が56.2%、観光旅行では国内が39.0%、海外が4.8%となっている。これを平成18年と比べると、「観光旅行（国内）」が4.0ポイント低下、「観光旅行（海外）」及び「行楽（日帰り）」がともに1.0ポイント低下などとなっており、全ての種類で低下している。（図5-5）

男女別にみると、国内及び海外の「業務出張・研修・その他」を除き、全ての種類で女性の方が高くなっている。（図5-6）

図5-5 「旅行・行楽」の種類別行動者率（平成18年、23年）

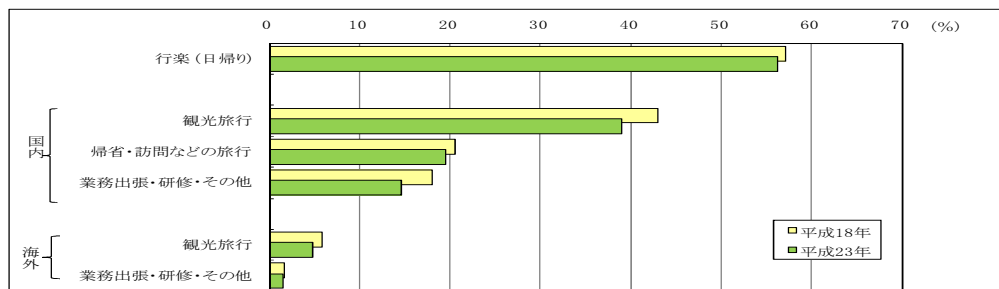
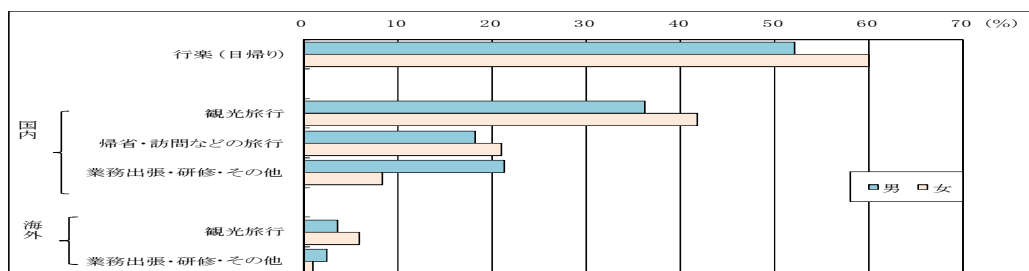


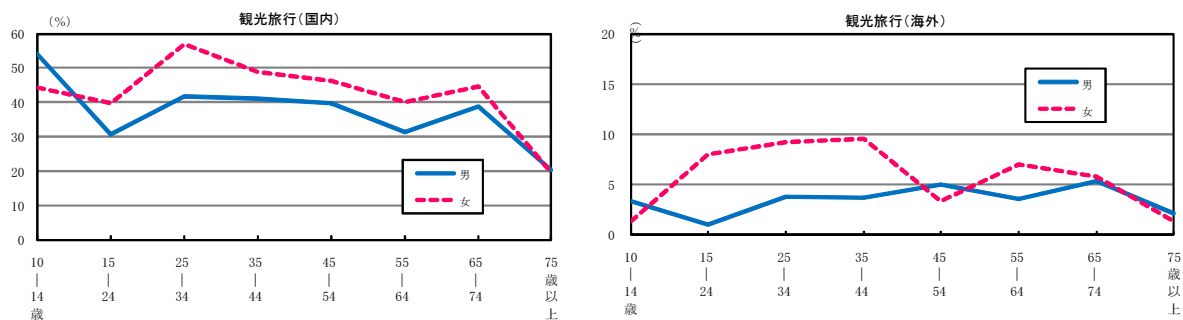
図5-6 「旅行・行楽」の種類、男女別行動者率



(3) 「観光旅行（海外）」の行動者率は男性が65～74歳で最も高く、女性は35～44歳で最も高い

「観光旅行（国内）」の行動者率を男女、年齢階級別にみると、男性は10～14歳で最も高く、女性は25～34歳で最も高くなっている。「観光旅行（海外）」は、男性は65～74歳で最も高く、女性は35～44歳で最も高くなっている。（図5-6）

図5-7 「観光旅行」の男女、年齢階級別行動者率



Ⅱ 生活時間に関する結果の概要

—利用上の主な用語—

- 1次活動…………… 睡眠、食事など生理的に必要な活動
- 2次活動…………… 仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動
- 3次活動…………… 1次活動、2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動
- 総平均時間…………… 該当する種類の行動をしなかった人を含む全員の平均

—利用上の注意—

- 1 この結果の概要では、特に断りのない限り、総平均時間の数値を記載している。
- 2 数値、人数は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

1 1日の生活時間の配分

(1) 概観

①週全体では、5年前より1次活動時間が増加、2次活動時間及び3次活動時間は減少

本県に住んでいる10歳以上の人について、1日の生活時間（週全体平均。以下「週全体」という。）をみると、1次活動¹⁾時間が10時間39分、2次活動²⁾時間が7時間、3次活動³⁾時間が6時間21分となっている。（図1-1、表1-1）

平成18年と比べると、1次活動時間は5分の増加、2次活動時間は1分の減少、3次活動時間は4分の減少となっている。（表1-1）

②1次活動時間、2次活動時間及び3次活動時間の男女の差は縮小

生活時間を男女別にみると、男性は1次活動時間が10時間33分、2次活動時間が6時間58分、3次活動時間が6時間29分、女性は1次活動時間が10時間45分、2次活動時間が7時間3分、3次活動時間が6時間13分となっており、1次活動時間及び2次活動時間は女性が長く、3次活動時間は男性が長くなっている。（表1-1）

平成18年と比べると、男性は1次活動時間が6分の増加、2次活動時間が5分の増加、3次活動時間が12分の減少、女性は1次活動時間が5分の増加、2次活動時間が6分の減少、3次活動時間が3分の増加となっている。（表1-1）

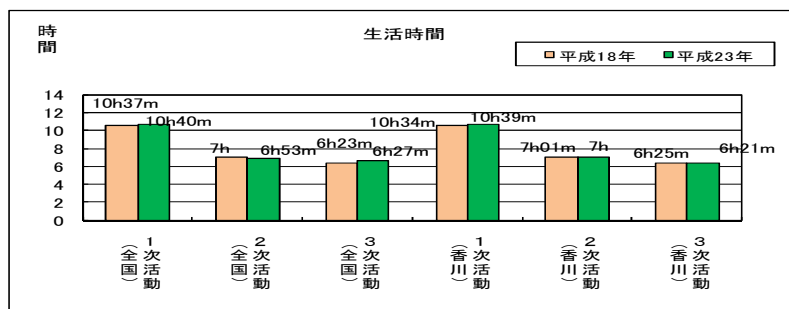
生活時間の男女の差を平成18年と比べると、1次活動時間は13分差が12分差に、2次活動時間は16分差が5分差に、3次活動時間は31分差が16分差になっており、全ての活動時間で差が縮小している。（表1-1）

③曜日別では、5年前より平日及び土曜日で1次活動時間が増加、2次活動時間及び3次活動時間は減少

生活時間を曜日別にみると、平日は1次活動時間が10時間29分、2次活動時間が7時間51分、3次活動時間が5時間40分、土曜日は1次活動時間が10時間55分、2次活動時間が5時間30分、3次活動時間が7時間35分、日曜日は1次活動時間が11時間12分、2次活動時間が4時間17分、3次活動時間が8時間31分となっており、1次活動時間及び3次活動時間は日曜日が最も長く、2次活動時間は平日が最も長くなっている。（表1-2）

平成18年と比べると、平日及び土曜日は1次活動時間が増加、2次及び3次活動時間が減少となっている。日曜日は2次活動時間及び3次活動が増加、1次活動時間が減少となっている。（表1-2）

図1-1 生活時間（平成18年、23年）一週全体



*データラベルの値は時間・分

- 1) 睡眠、食事など生理的に必要な活動 2) 仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動
3) 1次活動、2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動

表1-1 男女、行動の種類別生活時間（平成18年、23年）一週全体

(時間.分)

	総数			男			女		
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減
1次活動	10.34	10.39	0.05	10.27	10.33	0.06	10.40	10.45	0.05
睡眠	7.42	7.45	0.03	7.49	7.51	0.02	7.36	7.41	0.05
身の回りの用事	1.16	1.19	0.03	1.04	1.09	0.05	1.26	1.28	0.02
食事	1.36	1.35	-0.01	1.33	1.33	0.00	1.39	1.36	-0.03
2次活動	7.01	7.00	-0.01	6.53	6.58	0.05	7.09	7.03	-0.06
通勤・通学	0.24	0.23	-0.01	0.31	0.29	-0.02	0.18	0.17	-0.01
仕事	3.52	3.40	-0.12	5.04	4.58	-0.06	2.46	2.27	-0.19
学業	0.39	0.41	0.02	0.44	0.45	0.01	0.34	0.37	0.03
家事	1.27	1.31	0.04	0.17	0.21	0.04	2.31	2.36	0.05
介護・看護	0.03	0.05	0.02	0.01	0.02	0.01	0.05	0.07	0.02
育児	0.13	0.15	0.02	0.03	0.06	0.03	0.22	0.24	0.02
買い物	0.23	0.26	0.03	0.12	0.16	0.04	0.34	0.34	0.00
3次活動	6.25	6.21	-0.04	6.41	6.29	-0.12	6.10	6.13	0.03
移動（通勤・通学を除く）	0.27	0.28	0.01	0.25	0.25	0.00	0.30	0.31	0.01
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2.35	2.28	-0.07	2.41	2.31	-0.10	2.31	2.26	-0.05
休養・くつろぎ	1.24	1.28	0.04	1.26	1.26	0.00	1.23	1.31	0.08
学習・自己啓発・訓練（学業以外） 1)	0.11	0.10	-0.01	0.12	0.11	-0.01	0.11	0.10	-0.01
趣味・娯楽	0.45	0.41	-0.04	0.52	0.49	-0.03	0.38	0.34	-0.04
スポーツ	0.15	0.14	-0.01	0.21	0.19	-0.02	0.10	0.09	-0.01
ボランティア活動・社会参加活動	0.07	0.05	-0.02	0.07	0.06	-0.01	0.06	0.03	-0.03
交際・付き合い	0.18	0.16	-0.02	0.18	0.15	-0.03	0.18	0.18	0.00
受診・療養	0.08	0.12	0.04	0.06	0.10	0.04	0.09	0.13	0.04
その他	0.14	0.18	0.04	0.12	0.18	0.06	0.16	0.18	0.02
(再掲)									
家事関連 2)	2.06	2.17	0.11	0.33	0.45	0.12	3.32	3.41	0.09
休養等自由時間活動 3)	3.59	3.56	-0.03	4.07	3.57	-0.10	3.54	3.57	0.03
積極的自由時間活動 4)	1.18	1.10	-0.08	1.32	1.25	-0.07	1.05	0.56	-0.09

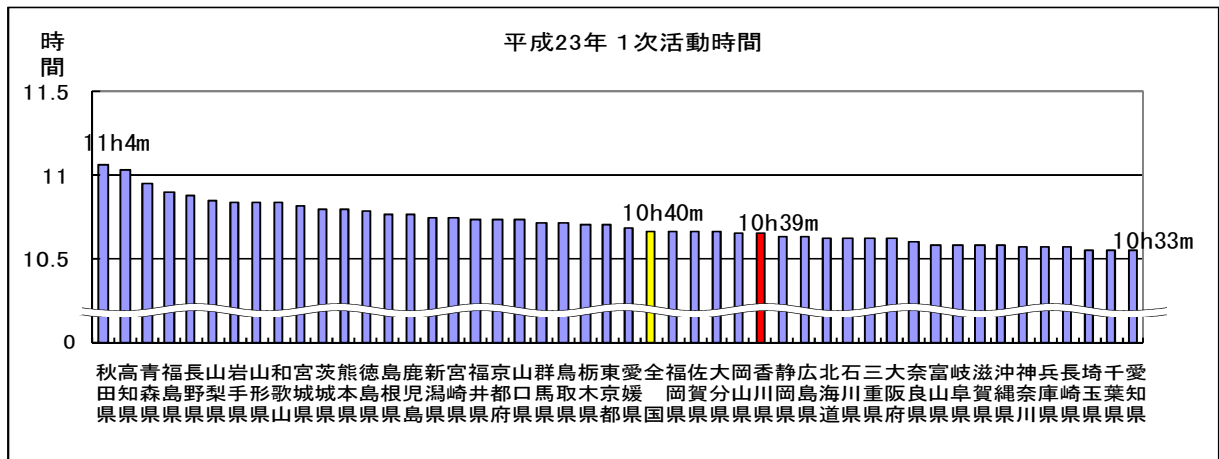
- 1) 家事、介護・看護、育児及び買い物
 2) テレビ・ラジオ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎ
 3) 学習・自己啓発・訓練（学業以外）、趣味・娯楽、スポーツ及びボランティア活動・社会参加活動

表1-2 男女、行動の種類、曜日別生活時間（平成18年、23年）

(時間.分)

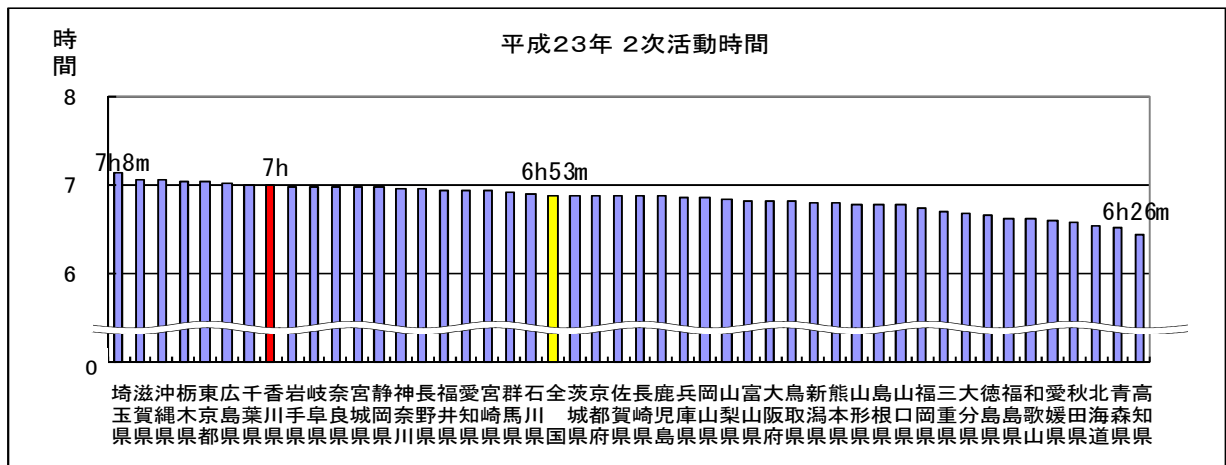
		平成18年			平成23年		
		平日	土曜日	日曜日	平日	土曜日	日曜日
総数	1次活動	10.22	10.50	11.18	10.29	10.55	11.12
	2次活動	7.53	5.34	4.12	7.51	5.30	4.17
	3次活動	5.46	7.36	8.30	5.40	7.35	8.31
男	1次活動	10.13	10.46	11.16	10.21	10.52	11.11
	2次活動	7.55	5.13	3.19	8.05	5.01	3.19
	3次活動	5.52	8.01	9.25	5.34	8.07	9.30
女	1次活動	10.30	10.55	11.20	10.37	10.58	11.13
	2次活動	7.50	5.53	5.00	7.38	5.57	5.11
	3次活動	5.40	7.12	7.40	5.45	7.05	7.36

図1-2 都道府県別1次活動時間一週全体



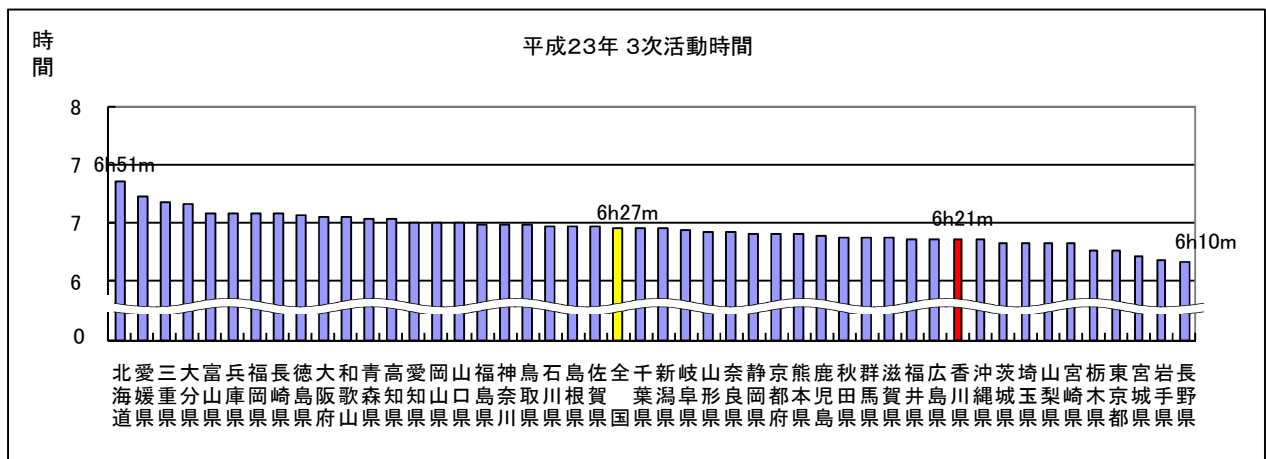
*データラベルの値は時間・分

図1-3 都道府県別2次活動時間一週全体



*データラベルの値は時間・分

図1-4 都道府県別3次活動時間一週全体



*データラベルの値は時間・分

(2) 年齢階級別にみる生活時間

① 2次活動時間は男性が25～34歳、女性は35～44歳が最も長い

生活時間を年齢階級別にみると、1次活動時間は、男女とも45～54歳（9時間44分、9時間41分）が最も短く、10～14歳及び65歳以上で長くなっている。（図1-6）

2次活動時間は、男性が25～34歳（8時間55分）、女性は35～44歳（8時間52分）が最も長く、これより年齢階級が低くなるほど及び高くなるほど短くなる傾向となっている。（図1-6）

3次活動時間は、男性は25～34歳（5時間2分）、女性は35～44歳（4時間54分）が最も短く、これより年齢階級が低くなるほど及び高くなるほど長くなる傾向となっている。（図1-6）

② 男性は45～64歳で、女性は10～24歳で2次活動時間が大幅に増加

生活時間を平成18年と比べると、1次活動時間は、男性が6分の増加、女性は5分の増加となっている。（表1-1）

年齢階級別にみると、男性は55～74歳で減少、それ以外では増加となっている。女性は15～24歳、55～64歳で減少、25～44歳、65歳以上では増加となっている。（図1-5）

2次活動時間は、男性が5分の増加、女性は6分の減少となっている。（表1-1）

年齢階級別にみると、男性は45～64歳で大幅に増加し、15～24歳で大幅に減少となっている。女性は10～24歳で大幅に増加し、45～54歳で大幅に減少となっている。（図1-5）

3次活動時間は、男性が12分の減少、女性は3分増加となっている。（表1-1）

年齢階級別にみると、男性は45～64歳及び75歳以上で大幅に減少している。女性は10～24歳で大幅に減少し、45～54歳で大幅な増加となっている。（図1-5）

図1-5 男女、年齢階級、行動の種類別生活時間の増減（平成18年～23年）一週全体

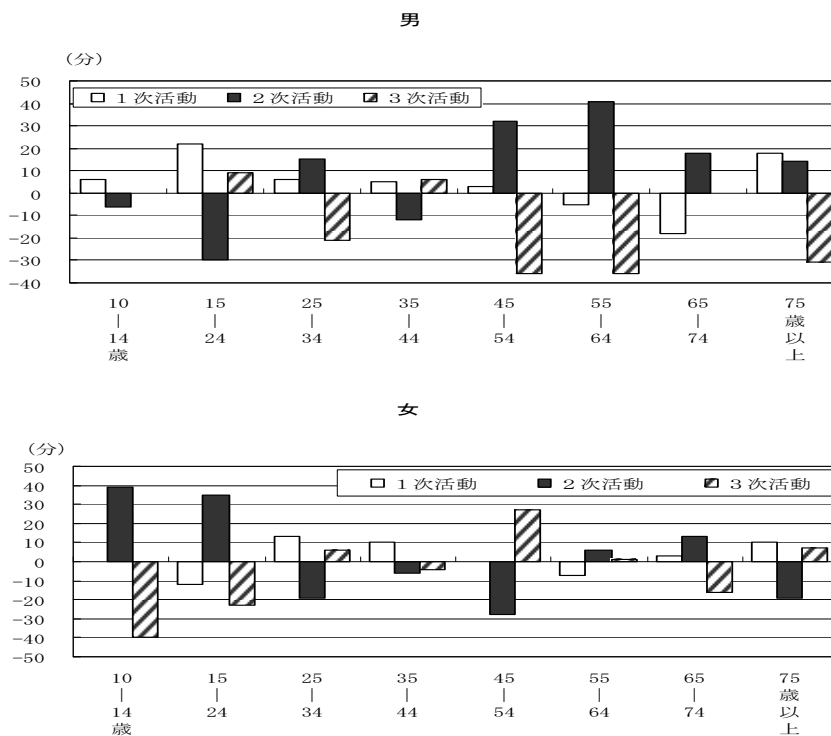
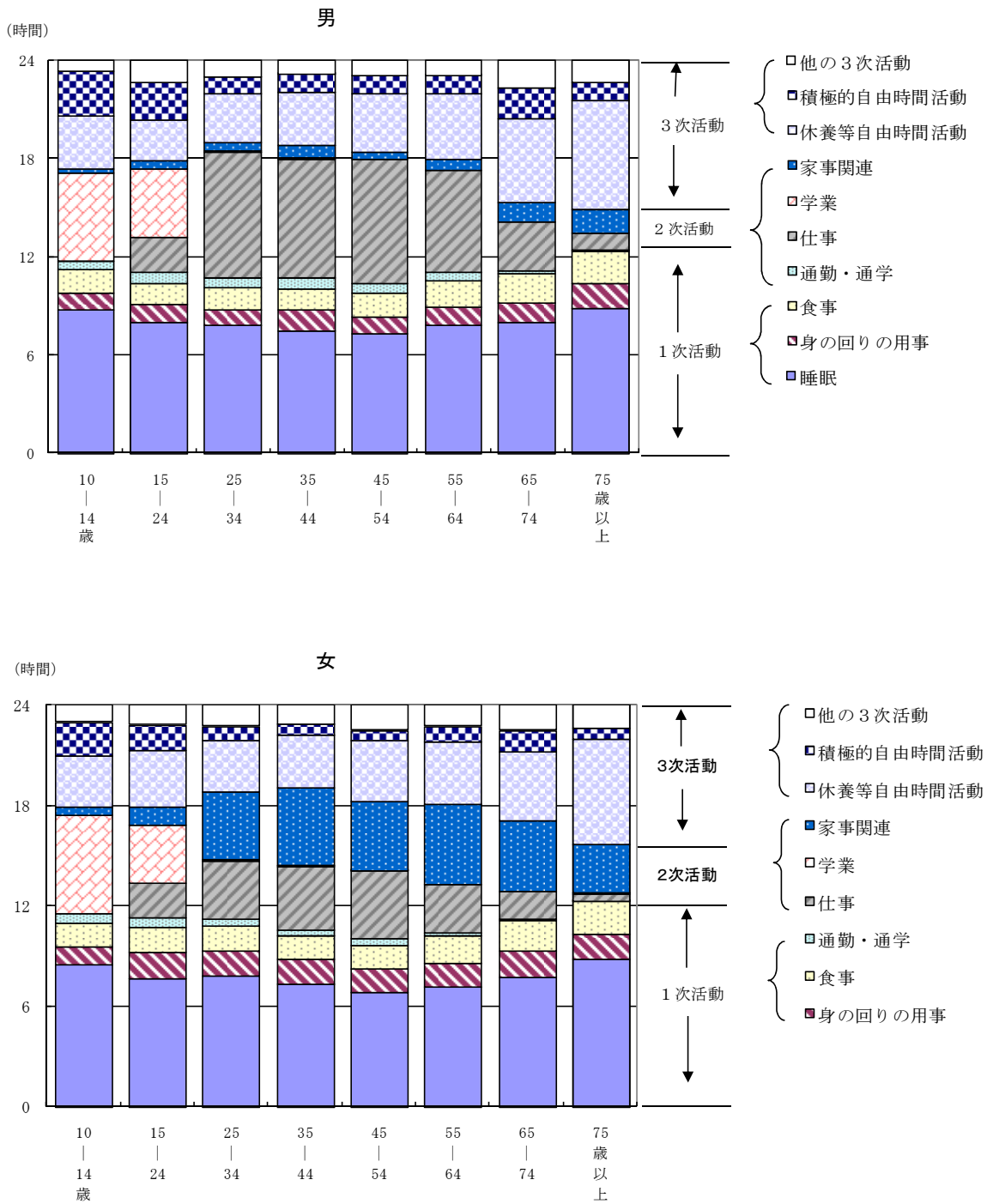


図1-6 男女、年齢階級、行動の種類別生活時間一週全体

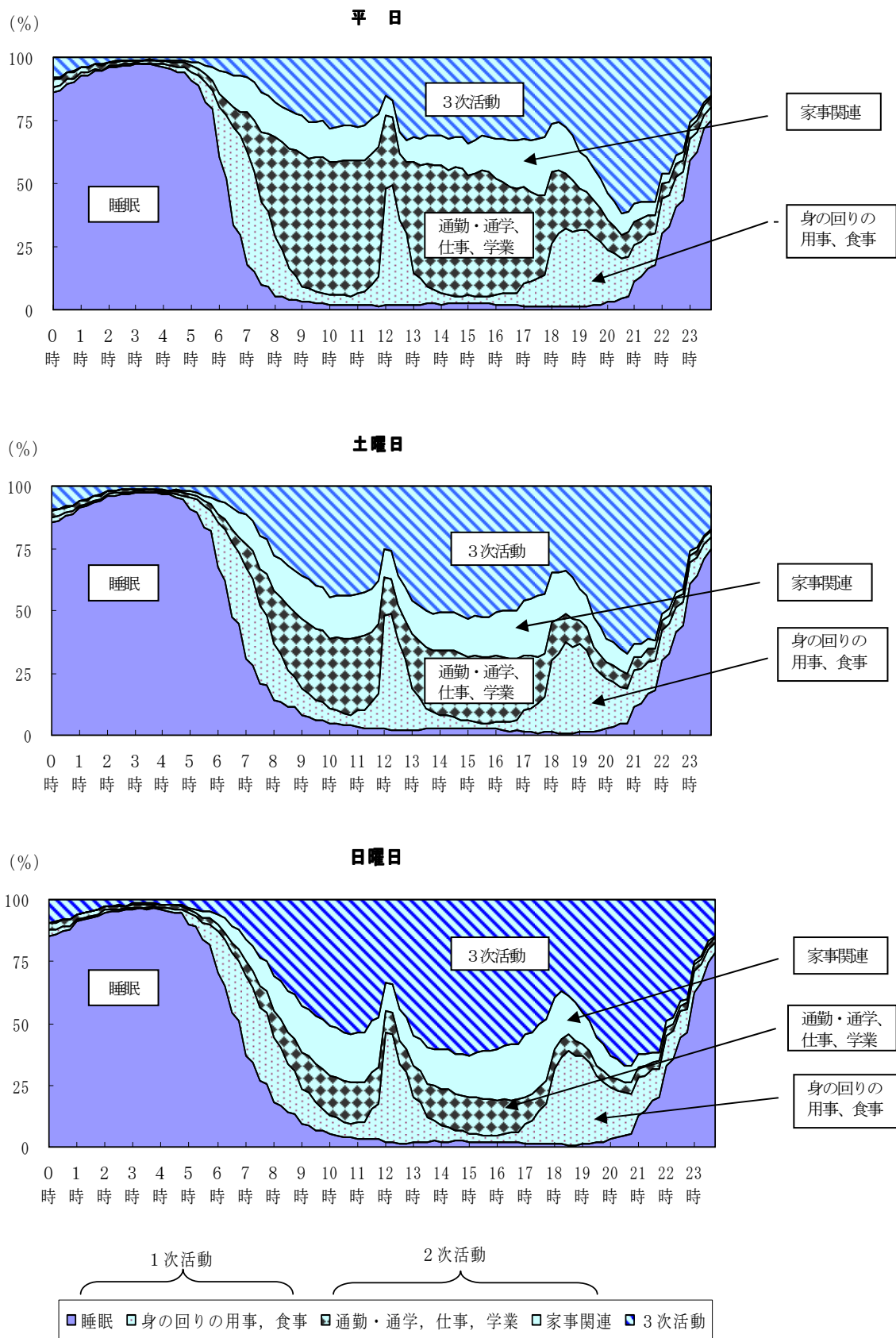


(3) 時間帯別にみる行動者率

平日に3次活動の行動者率が5割を超えるのは20時から22時までの間

行動者率（人口に占める行動者数の割合）を曜日、時間帯別にみると、3次活動の行動者率が5割を超えるのは、平日は20時から22時までの間、土曜日は13時45分から16時30分までの間及び19時30分から22時15分までの間、日曜日は10時から11時30分までの間、13時から17時45分までの間及び19時30分から22時までの間となっている。（図1-7）

図1-7 曜日、行動の種類、時間帯別行動者率



2 1次活動

(1) 睡眠

①睡眠時間は45～54歳で最も短い

睡眠時間は7時間45分で、男性が7時間51分、女性は7時間41分と男性が10分長くなっている。

(図2-1)

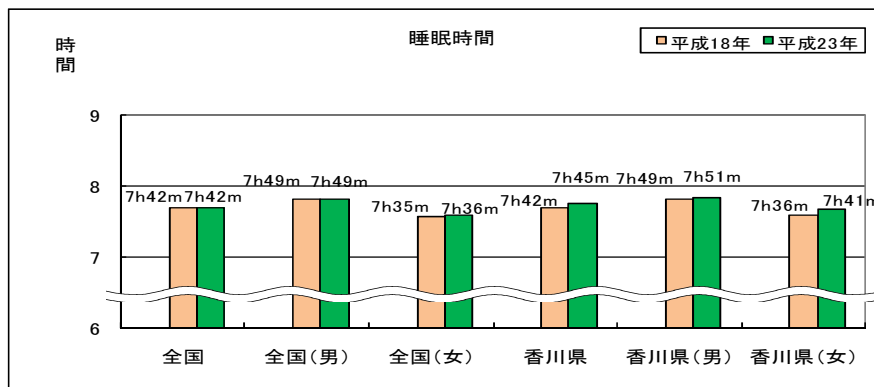
男女別にみると、25～34歳を除く全ての年齢階級で男性が長く、特に45～64歳で女性より20分以上長くなっている。(図2-2、表2-1)

これを年齢階級別にみると、45～54歳が7時間1分と最も短く、次いで35～44歳が7時間24分などとなっており、75歳以上が8時間47分と最も長くなっている。(表2-1)

②睡眠時間は15～24歳、45～74歳で減少

睡眠時間を平成18年と比べると3分増加しているが、年齢階級別にみると、15～24歳を除く10～44歳で増加し、45～74歳で減少となっている。(図2-1、表2-1、図2-3)

図2-1 男女別睡眠時間(平成18年、23年)一週全体



*データラベルの値は時間・分

図2-2 男女、年齢階級別睡眠時間一週全体

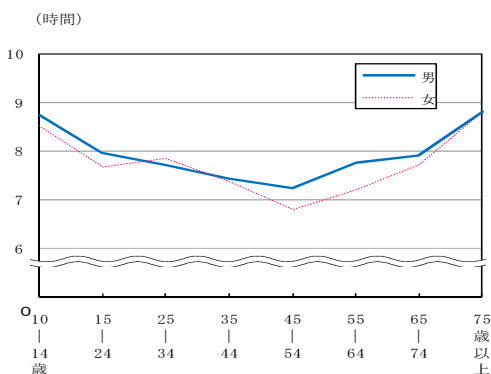


図2-3 年齢階級別睡眠時間(平成18年、23年)一週全体

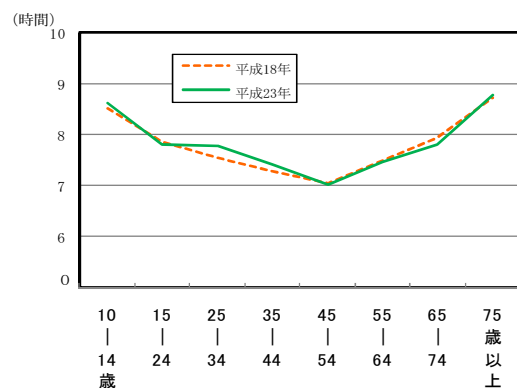
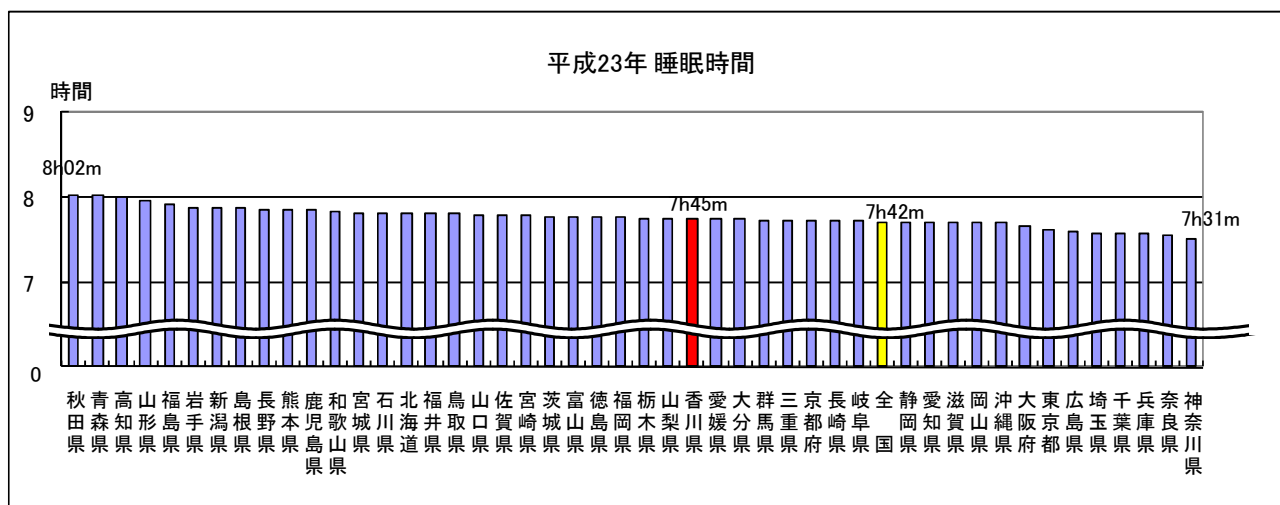


表 2-1 男女、年齢階級別睡眠時間（平成 18 年、23 年）一週全体

(時間.分)

	総 数			男			女			男女差
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成23年
総数	7.42	7.45	0.03	7.49	7.51	0.02	7.36	7.41	0.05	0.10
10～14歳	8.30	8.37	0.07	8.34	8.44	0.10	8.25	8.31	0.06	0.13
15～24歳	7.52	7.49	-0.03	7.46	7.58	0.12	7.58	7.40	-0.18	0.18
25～34歳	7.33	7.46	0.13	7.36	7.43	0.07	7.31	7.50	0.19	-0.07
35～44歳	7.17	7.24	0.07	7.27	7.26	-0.01	7.08	7.22	0.14	0.04
45～54歳	7.02	7.01	-0.01	7.18	7.14	-0.04	6.47	6.48	0.01	0.26
55～64歳	7.29	7.28	-0.01	7.43	7.45	0.02	7.15	7.11	-0.04	0.34
65～74歳	7.56	7.49	-0.07	8.10	7.55	-0.15	7.44	7.43	-0.01	0.12
75歳以上	8.43	8.47	0.04	8.52	8.48	-0.04	8.37	8.47	0.10	0.01

図 2-4 都道府県別睡眠時間一週全体



*データラベルの値は時間・分

③睡眠時間は男女ともに平日、土曜日が増加、日曜日は減少

睡眠時間を曜日別にみると、1日（午前0時から起算する24時間）のうち、平日が7時間37分、土曜日が8時間、日曜日が8時間12分となっており、平日に比べ日曜日は35分長くなっている。（表2-2）

これを男女別に平成18年と比べると、男女ともに平日と土曜日は増加し、日曜日は減少となっている。（図2-5、表2-2）

図 2-5 男女、曜日別睡眠時間（平成18年、23年）

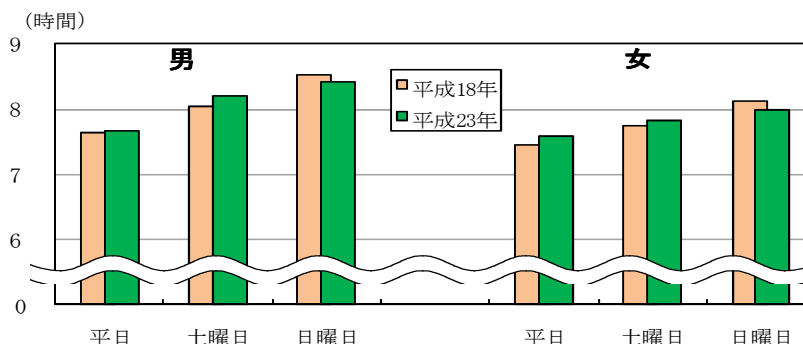


表 2-2 男女、曜日別睡眠時間 (平成 18 年、23 年)

	(時間.分)					
	総数		男		女	
	平成18年	平成23年	平成18年	平成23年	平成18年	平成23年
平日	7.32	7.37	7.38	7.40	7.27	7.35
土曜日	7.53	8.00	8.02	8.12	7.45	7.49
日曜日	8.19	8.12	8.32	8.25	8.07	8.00

④睡眠時間は過去 25 年間で男女ともに減少傾向

比較可能な年齢区分である 15 歳以上について、過去 25 年間の睡眠時間の推移を男女別にみると、男女ともに減少傾向となっており、昭和 61 年と比べると、男性が 10 分、女性は 3 分の減少となっている。(図 2-6、表 2-3)

図 2-6 男女睡眠時間の推移(昭和 61 年～平成 23 年) 一週全体、15 歳以上

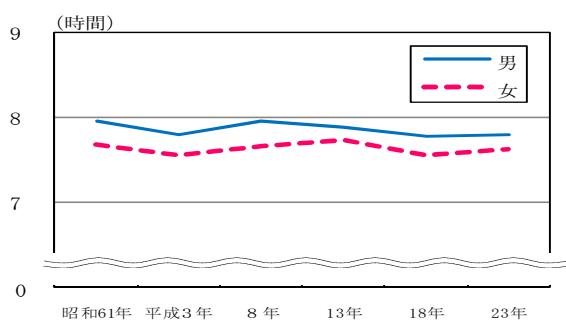


表 2-3 男女睡眠時間の推移(昭和 61 年～平成 23 年) 一週全体、15 歳以上

	(時間.分)	
	男	女
昭和61年	7.58	7.41
平成3年	7.48	7.34
平成8年	7.58	7.40
平成13年	7.53	7.44
平成18年	7.47	7.33
平成23年	7.48	7.38

(2) 身の回りの用事

①身の回りの用事の時間は全ての年齢階級で女性の方が長い

身の回りの用事の時間は 1 時間 19 分で、男性が 1 時間 9 分、女性は 1 時間 28 分と女性が 19 分長くなっている。(図 2-7、表 2-4)

これを男女別にみると、全ての年齢階級で女性の方が長く、特に 15～34 歳では 30 分以上の差が見られる。(図 2-8、表 2-4)

年齢階級別にみると、10～14 歳が 1 時間 2 分と最も短く、75 歳以上が 1 時間 33 分と最も長くなっている。(図 2-9、表 2-4)

②身の回りの用事の時間は 10～14 歳及び 25～34 歳を除く全ての年齢階級で増加

身の回りの用事の時間を平成 18 年と比べると、3 分の増加となっている。

年齢階級別にみると、10～14 歳及び 25～34 歳を除く全ての年齢階級で増加となっている。(表 2-4)

図2-7 身の回りの用事の時間（平成18年、23年）一週全体

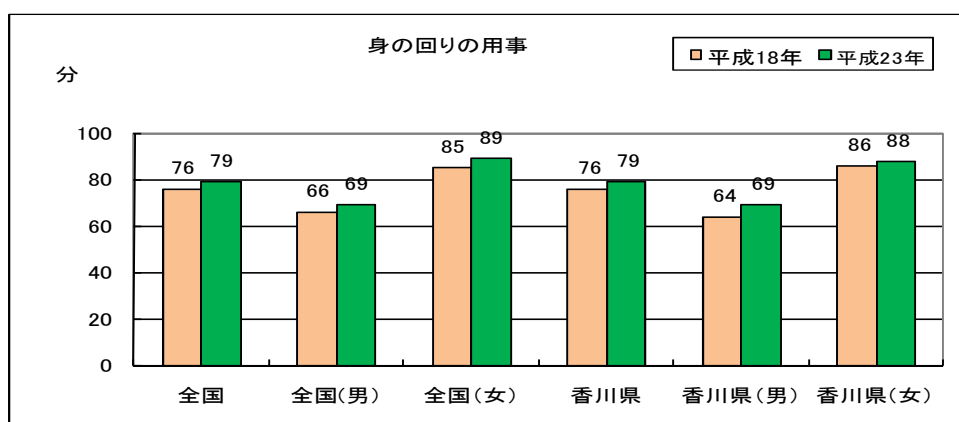


図2-8 男女、年齢階級別身の回りの用事の時間一週全体

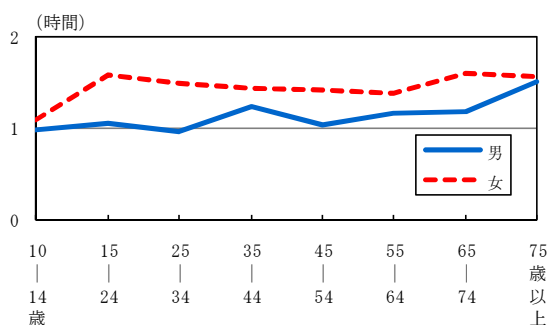


図2-9 年齢階級別身の回りの用事の時間（平成18年、23年）一週全体

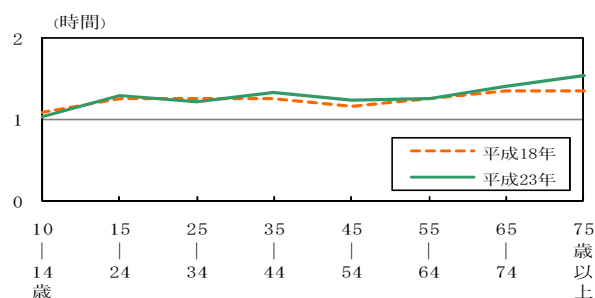
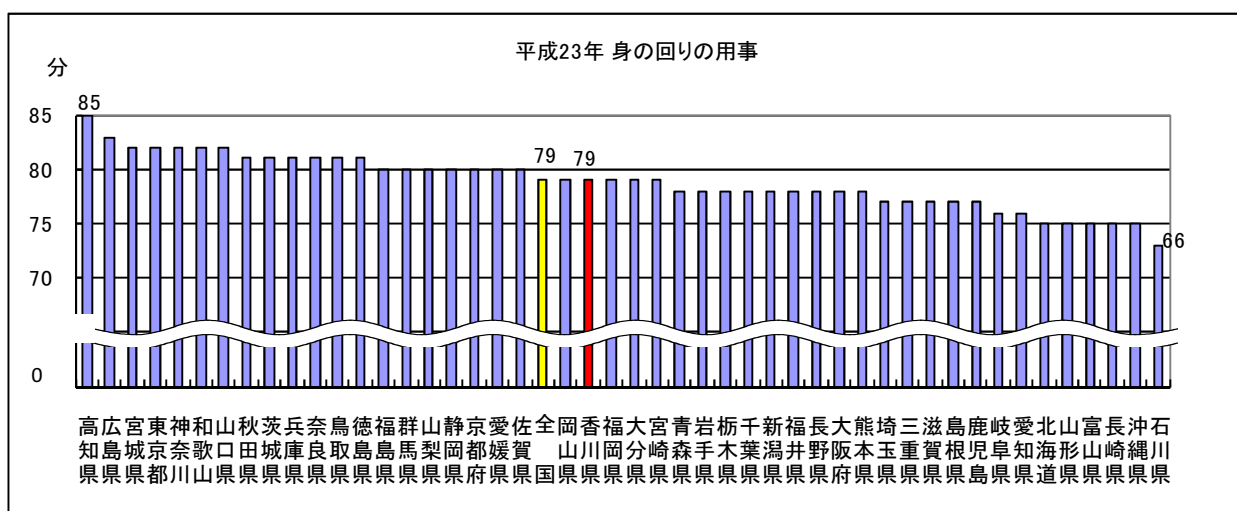


表2-4 男女、年齢階級別身の回りの用事の時間（平成18年、23年）一週全体

	総数			男			女			男女差
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成23年
総数	1.16	1.19	0.03	1.04	1.09	0.05	1.26	1.28	0.02	-0.19
10～14歳	1.05	1.02	-0.03	1.06	0.59	-0.07	1.04	1.05	0.01	-0.06
15～24歳	1.15	1.18	0.03	0.55	1.03	0.08	1.35	1.35	0.00	-0.32
25～34歳	1.15	1.13	-0.02	0.58	0.58	0.00	1.32	1.29	-0.03	-0.31
35～44歳	1.16	1.20	0.04	1.06	1.14	0.08	1.25	1.26	0.01	-0.12
45～54歳	1.10	1.14	0.04	0.58	1.02	0.04	1.22	1.25	0.03	-0.23
55～64歳	1.16	1.16	0.00	1.10	1.09	-0.01	1.22	1.23	0.01	-0.14
65～74歳	1.21	1.25	0.04	1.15	1.11	-0.04	1.26	1.36	0.10	-0.25
75歳以上	1.21	1.33	0.12	1.07	1.30	0.23	1.30	1.34	0.04	-0.04

図2-10 都道府県別身の回りの用事一週全体

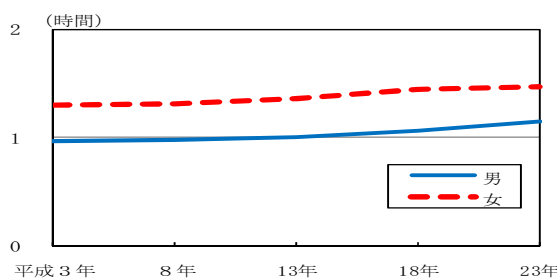


③身の回りの用事の時間は過去20年間で男性が11分、女性は10分増加

比較可能な年齢区分である15歳以上について、過去20年間の身の回りの用事の時間の推移を男女別にみると、男女ともに増加しており、平成3年と比べると、男性が11分、女性は10分の増加となっている。(図2-11、表2-5)

図2-11 男女別身の回りの用事の時間の推移(平成3年~平成23年) 一週全体、15歳以上

表2-5 男女別身の回りの用事の時間の推移(平成3年~平成23年) 一週全体、15歳以上



(時間.分)

	男	女
平成3年	0.58	1.18
平成8年	0.59	1.19
平成13年	1.00	1.22
平成18年	1.04	1.27
平成23年	1.09	1.28

(3) 食事

①食事時間は高齢層で長い

食事時間は1時間35分で、男性が1時間33分、女性は1時間36分と女性が3分長くなっている。

(図2-12)

年齢階級別にみると、15～24歳が1時間22分と最も短く、75歳以上が1時間58分と最も長くなっており、15歳以上は年齢階級が高くなるほど長くなる傾向となっている。(表2-6)

これを男女別にみると、15～44歳及び55～64歳で女性が長く、特に15～24歳で男性より7分長くなっている。一方、10～14歳及び65歳以上では、男性の方が長くなっている。(表2-6)

②本県の食事時間は全国で5番目に短い

本県の食事時間は1時間35分(95分)と短く、最も短い1時間34分(94分)に次いで、全国で5番目に短い。

(図2-13)

③食事時間は一部の年齢階級を除き、5年前より減少

食事時間を平成18年と比べると減少となっているが、年齢階級別にみると、15～24歳と45～54歳を除き、全ての年齢階級で減少となっている。(表2-6)

図2-12 食事時間(平成18年、23年)一週全体

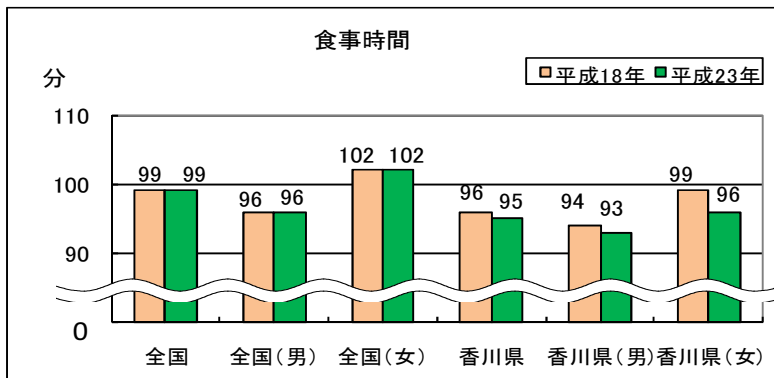
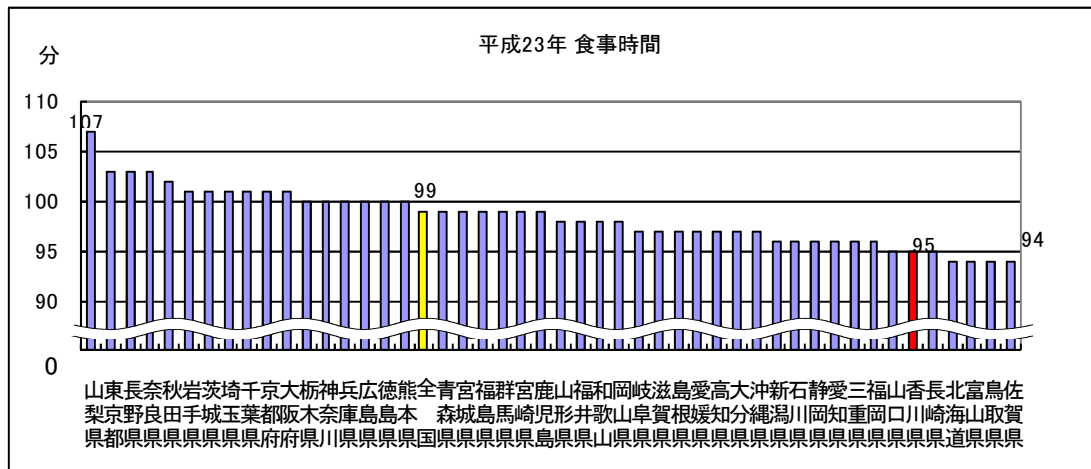


表2-6 男女、年齢階級別食事時間(平成18年、23年)一週全体

	総数			男			女			男女差
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成23年
総数	1.36	1.35	-0.01	1.33	1.33	0.00	1.39	1.36	-0.03	-0.03
10～14歳	1.25	1.24	-0.01	1.23	1.27	0.04	1.28	1.21	-0.07	0.06
15～24歳	1.19	1.22	0.03	1.18	1.19	0.01	1.20	1.26	0.06	-0.07
25～34歳	1.27	1.25	-0.02	1.23	1.22	-0.01	1.31	1.28	-0.03	-0.06
35～44歳	1.27	1.23	-0.04	1.23	1.21	-0.02	1.31	1.26	-0.05	-0.05
45～54歳	1.28	1.28	0.00	1.24	1.28	0.04	1.31	1.28	-0.03	0.00
55～64歳	1.43	1.37	-0.06	1.42	1.36	-0.06	1.43	1.39	-0.04	-0.03
65～74歳	1.51	1.49	-0.02	1.48	1.49	0.01	1.54	1.48	-0.06	0.01
75歳以上	2.01	1.58	-0.03	2.03	2.01	-0.02	2.00	1.55	-0.05	0.06

図2-13 都道府県別食事時間一週全体

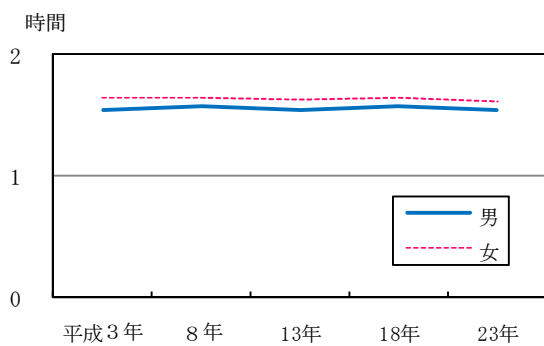


④食事時間は過去25年間で男女ともにおおむね横ばい

比較可能な年齢区分である15歳以上について、過去20年間の食事時間の推移を男女別にみると、男女ともにおおむね横ばいとなっている。(図2-14、表2-7)

図2-14 男女別食事時間の推移(平成3年～平成23年)一週全体、15歳以上

表2-7 男女別食事時間の推移(平成3年～平成23年)一週全体、15歳以上



(時間・分)

	男	女
平成3年	1.33	1.39
平成8年	1.34	1.39
平成13年	1.33	1.38
平成18年	1.34	1.39
平成23年	1.33	1.37

3 2次活動

(1) 仕事

①仕事時間は全国で3番目に長く、特に男性は長い

有業者（15歳以上、以下同じ。）は50万1千人（有業率（15歳以上人口に占める有業者の割合）57.1%）で、男性は28万4千人（同67.1%）、女性は21万7千人（同47.8%）となっている。（表3-1）

有業者の仕事時間は6時間23分で、男性は7時間22分、女性は5時間5分となっている。仕事時間を他の都道府県と比較すると3番目に長く、特に男性は2番目に長い。（図3-1、図3-2）

男女、年齢階級別にみると、男性は25～34歳が8時間3分と最も長く、女性は45～54歳が5時間30分と最も長くなっている。（表3-2）

②仕事時間は5年前より男性が増加、女性は減少

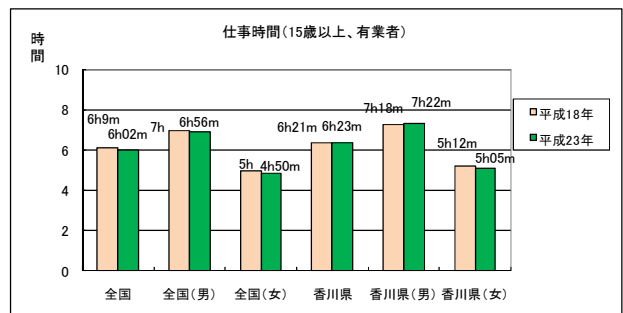
有業者について仕事時間を平成18年と比べると、2分の増加となっており、男性は4分の増加、女性は7分の減少となっている。（表3-2）

表3-1 男女別有業者数及び有業率
(平成18年、23年)

		平成18年	平成23年	増減
有業者数 (千人)	総数	528	501	-27
	男	289	284	-5
	女	239	217	-22
有業率 (%, 増減は ポイント)	総数	59.5	57.1	-2.3
	男	68.0	67.1	-0.9
	女	51.6	47.8	-3.8

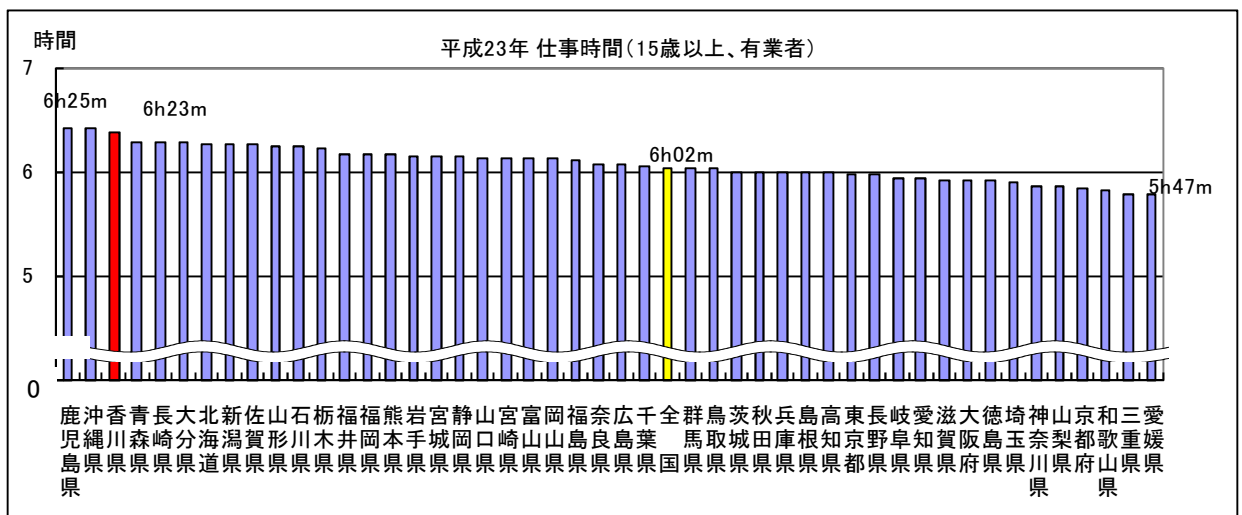
注) 有業率は、ふだんの就業状態不詳を除き算出。

図3-1 仕事時間（平成18年、23年）
一週全体、有業者



*データラベルの値は時間・分

図3-2 都道府県別仕事時間一週全体一有業者、15歳以上、総数、男女



*データラベルの値は時間・分

図3-2-1 都道府県別仕事時間一週全体一有業者、15歳以上、男

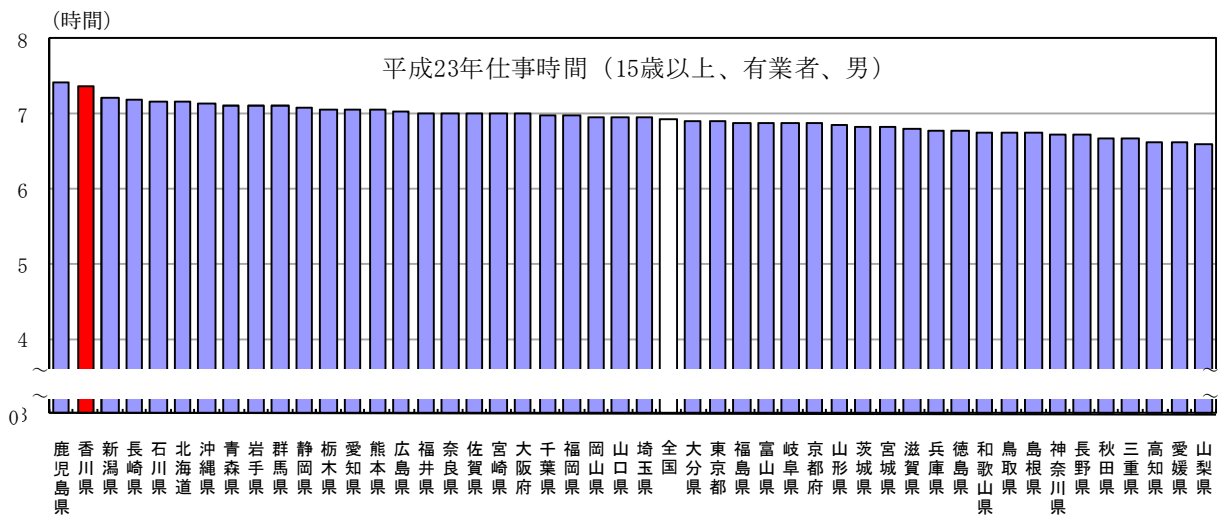


図3-2-2 都道府県別仕事時間一週全体一有業者、15歳以上、女

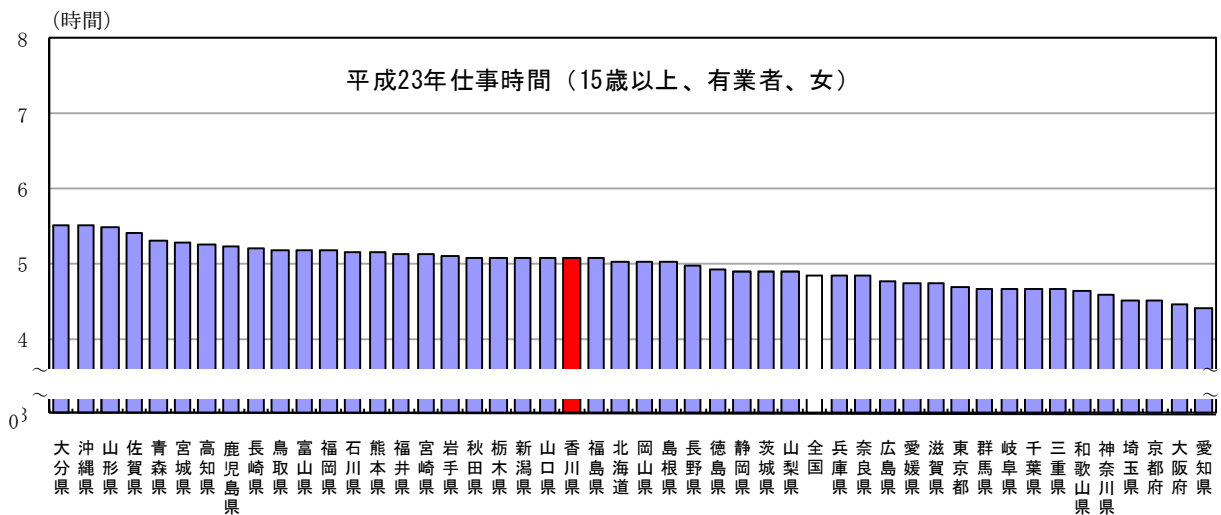


図3-3 男女、年齢階級別仕事時間(平成18年、23年)一週全体、有業者

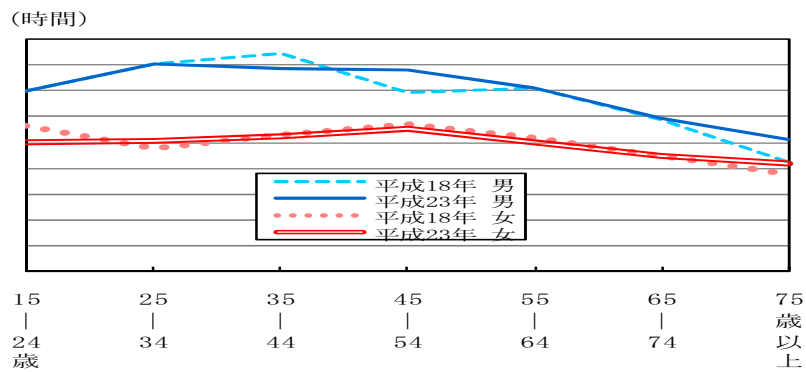


表3-2 男女、年齢階級別仕事時間（平成18年、23年）一週全体、有業者

(時間.分)

	総数			男			女			男女差
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成23年
総数	6.21	6.23	0.02	7.18	7.22	0.04	5.12	5.05	-0.07	2.17
15～24歳	6.18	5.52	-0.26	7.01	7.01	0.00	5.37	5.00	-0.37	2.01
25～34歳	6.33	6.51	0.18	8.02	8.03	0.01	4.46	5.04	0.18	2.59
35～44歳	6.55	6.42	-0.13	8.28	7.51	-0.37	5.16	5.13	-0.03	2.38
45～54歳	6.22	6.49	0.27	6.55	7.50	0.55	5.42	5.30	-0.12	2.20
55～64歳	6.16	6.15	-0.01	7.07	7.06	-0.01	5.11	5.00	-0.11	2.06
65～74歳	5.17	5.17	0.00	5.51	5.55	0.04	4.30	4.28	-0.02	1.27
75歳以上	4.01	4.41	0.40	4.13	5.06	0.53	3.47	4.10	0.23	0.56

③仕事時間は平日、日曜日が増加、土曜日は減少

有業者の仕事時間を曜日別にみると、平日は7時間32分、土曜日は4時間31分、日曜日は2時間32分となっている。

平成18年と比べると、土曜日のみ減少している。(表3-3)

有業者について、仕事の行動者率を曜日別に平成18年と比べると、平日が0.1ポイント、土曜日は4.8ポイント低下、日曜日は3.5ポイント上昇となっている。(表3-3)

表3-3 曜日別仕事時間及び仕事の行動者率（平成18年、23年）一有業者

	時間（時間.分）		行動者率（%）	
	平成18年	平成23年	平成18年	平成23年
平日	7.26	7.32	87.5	87.4
土曜日	4.52	4.31	63.3	58.5
日曜日	2.25	2.32	33.3	36.8

④「正規の職員・従業員」の仕事時間が増加

雇用されている人（会社などの役員を除く。以下同じ）の仕事時間は6時間30分で平成18年と比べると、2分増加している。(表3-4)

雇用されている人の仕事時間を雇用形態別にみると、「正規の職員・従業員」が7時間31分、「正規の職員・従業員以外」が4時間42分となっている。平成18年と比べると、「正規の職員・従業員」が16分の増加、「正規の職員・従業員以外」が6分の減少となっている。(図3-4、表3-4)

仕事時間を男女別にみると、男女ともに「正規の職員・従業員」は増加し、「正規の職員・従業員以外」は減少となっている。(表3-4)

仕事時間に当該人口を掛け合わせた仕事時間総量を平成18年と比べると、「正規の職員・従業員」は減少し、「正規の職員・従業員以外」は増加となっている。(表3-4、図3-6)

これを男女別にみると、「正規の職員・従業員」は男性のみが、「正規の職員・従業員以外」は男女ともに増加となっている。

(表3-4、図3-6)

図3-4 雇用形態別仕事時間（平成18年、23年）一週全体、雇用されている人

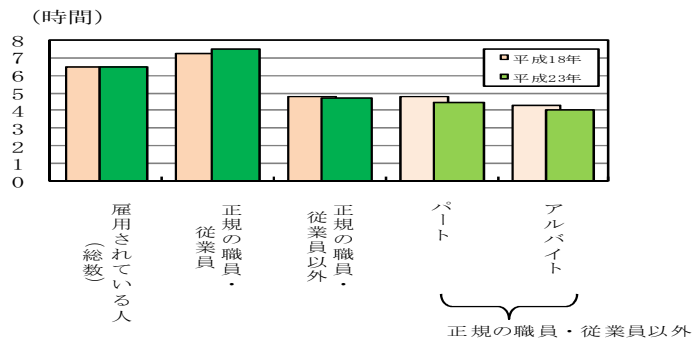


表3-4 男女、雇用形態別仕事時間及び仕事時間総量（平成18年、23年）一週全体、雇用されている人

	平成18年			平成23年			増減			
	人口 (千人)	仕事時間 (時間.分)	仕事時間 総量 (万時間)	人口 (千人)	仕事時間 (時間.分)	仕事時間 総量 (万時間)	人口 (千人)	仕事時間 (時間.分)	仕事時間 総量 (万時間)	
総数	雇用されている人	400	6.28	259	399	6.30	259	-1	0.02	1
	正規の職員・従業員	272	7.15	197	254	7.31	191	-18	0.16	-6
	正規の職員・従業員以外	128	4.48	50	145	4.42	68	17	-0.06	18
	うちパート	83	4.49	40	69	4.28	31	-14	-0.21	-9
	うちアルバイト	23	4.20	10	23	4.00	9	0	-0.20	-1
男	雇用されている人	212	7.29	150	215	7.33	162	3	0.04	13
	正規の職員・従業員	182	7.47	137	179	7.56	142	-3	0.09	6
	正規の職員・従業員以外	30	5.40	11	36	5.37	20	6	-0.03	10
	うちパート	12	6.28	6	6	5.46	3	-6	-0.42	-3
	うちアルバイト	10	5.13	5	11	4.36	5	1	-0.37	0
女	雇用されている人	188	5.22	101	185	5.16	97	-3	-0.06	-3
	正規の職員・従業員	91	6.20	58	75	6.29	49	-16	0.09	-9
	正規の職員・従業員以外	97	4.28	37	109	4.26	48	12	-0.02	11
	うちパート	72	4.30	32	62	4.21	27	-10	-0.09	-5
	うちアルバイト	13	3.49	5	13	3.36	5	0	-0.13	0

図3-5 雇用形態別構成割合（平成18年、23年）

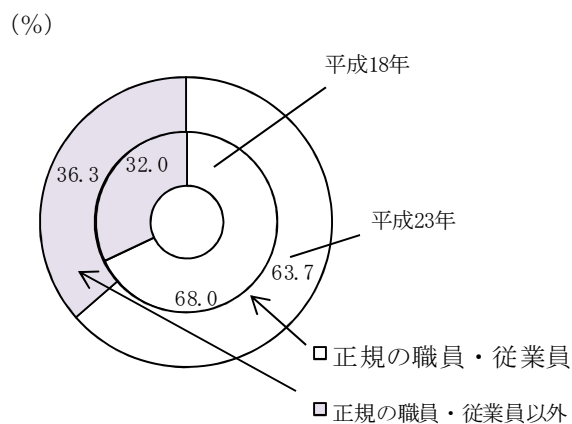
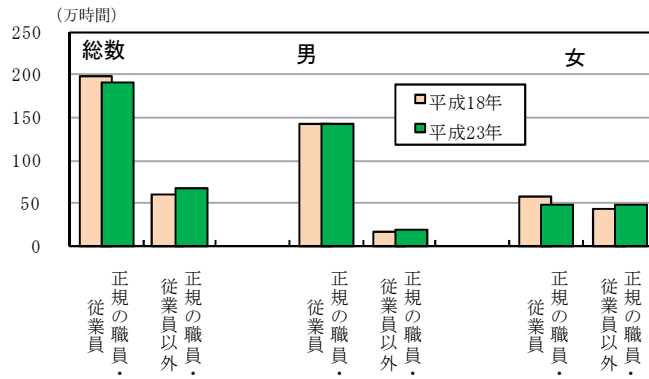


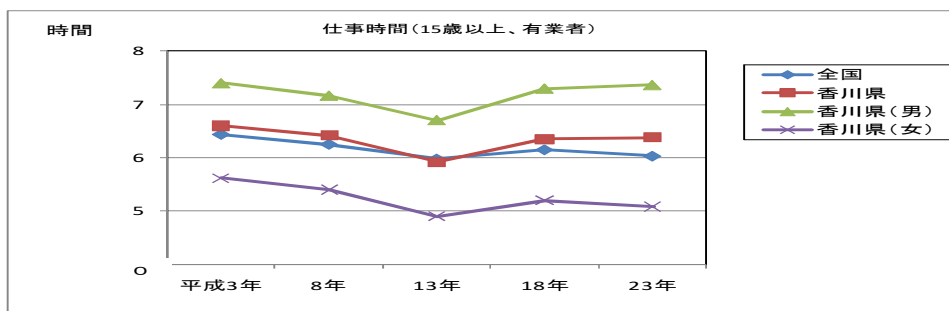
図3-6 雇用形態別仕事時間総量（平成18年、23年）一週全体、



⑤仕事時間は引き続き増加傾向

有業者について、過去20年間の仕事時間の推移を男女別にみると、男女ともに平成13年まで減少が続き、18年は増加に転じた。23年は、男性が引き続き増加し、女性は再び減少している。(図3-7)

図3-7 男女別仕事時間の推移（平成3年～平成23年）一週全体-15歳以上、



(2) 家事関連

①家事関連時間は55～64歳の女性が最も長い

家事関連時間は2時間17分で、男性が45分、女性は3時間41分と男女の間に依然として大きな差が見られる。(図3-8、表3-5)

男女、年齢階級別にみると、男性は65歳以上で1時間以上と長くなっている。一方、女性は25～74歳で4時間以上と長く、特に55～64歳で4時間48分と最も長くなっている。(図3-9、表3-5)

②家事関連時間は5年前より男性がほとんどの年齢階級で増加

家事関連時間を男女別に平成18年と比べると、男性が12分、女性は9分の増加となっている。(表3-5)

男女、年齢階級別にみると、男性は45～54歳を除く全ての年齢階級で増加となっている。一方、女性は35～44歳及び55～64歳で増加の幅が大きく、25～34歳及び75歳以上で減少の幅が大きくなっている。(図3-9、表3-5)

③本県の家事関連時間は全国的にみて長い

家事関連時間は全国で5番目に長い。(図3-10)

表3-5 男女、年齢階級別家事関連時間（平成18年、23年）一週全体

	総数			男			女			男女差	
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年
総数	2.06	2.17	0.11	0.33	0.45	0.12	3.32	3.41	0.09	-2.59	-2.56
10～14歳	0.19	0.19	0.00	0.11	0.14	0.03	0.28	0.26	-0.02	-0.17	-0.12
15～24歳	0.31	0.47	0.16	0.14	0.29	0.15	0.48	1.06	0.18	-0.34	-0.37
25～34歳	2.22	2.18	-0.04	0.25	0.30	0.05	4.18	4.07	-0.11	-3.53	-3.37
35～44歳	2.17	2.43	0.26	0.28	0.46	0.18	4.03	4.40	0.37	-3.35	-3.54
45～54歳	2.16	2.20	0.04	0.36	0.29	-0.07	3.56	4.07	0.11	-3.20	-3.38
55～64歳	2.32	2.46	0.14	0.38	0.41	0.03	4.24	4.48	0.24	-3.46	-4.07
65～74歳	2.44	2.46	0.02	0.53	1.08	0.15	4.19	4.13	-0.06	-3.26	-3.05
75歳以上	2.17	2.21	0.04	1.00	1.29	0.29	3.05	2.54	-0.11	-2.05	-1.25

④家事関連時間は男女とも全ての曜日で増加

家事関連時間を曜日別にみると、平日が2時間12分、土曜日が2時間22分、日曜日が2時間29分となっており、平日と比べると日曜日は17分長くなっている。（表3-6）

これを男女別に平成18年と比べると、男女とも全ての曜日で増加となっている。（図3-11、表3-6）

図3-11 男女、曜日別家事関連時間（平成18年、23年）

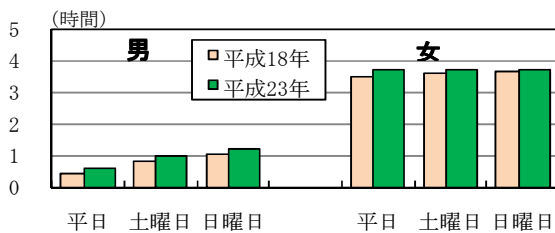


表3-6 男女、曜日別家事関連時間（平成18年、23年）

	総数		男		女	
	平成18年	平成23年	平成18年	平成23年	平成18年	平成23年
平日	2.01	2.12	0.24	0.37	3.29	3.41
土曜日	2.16	2.22	0.48	0.57	3.35	3.41
日曜日	2.22	2.29	1.01	1.11	3.38	3.42

⑤家事関連時間の男女差は依然として大きい

過去10年間の家事関連時間の推移を男女別にみると、男女とも増加しており、男性は平成13年と比べると14分の増加となっているのに対し、女性は12分増加しており、男女差は依然として大きい。（図3-12、表3-7）

図3-12 男女、家事関連時間の推移（平成13年～23年）一週全体

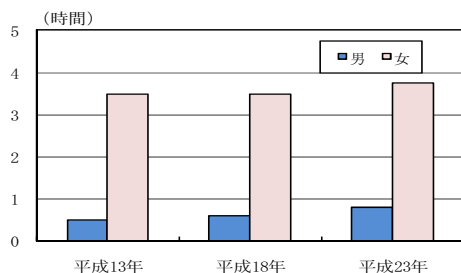


表3-7 男女、家事関連時間（平成13年～23年）一週全体

	男	女	差
平成13年	0.31	3.29	2.58
平成18年	0.33	3.32	2.59
平成23年	0.45	3.41	2.56

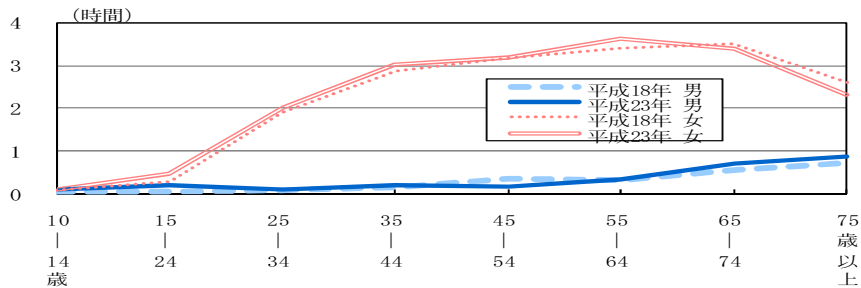
⑥家事関連時間のうち家事時間は45～64歳で男女差が大きい

家事関連時間のうち炊事・掃除・洗濯等の家事時間について、男女、年齢階級別に平成18年と比べると、女性は65歳以上を除き、他の階級で増加しており、特に55～64歳では14分増加している。一方、男性は45～54歳を除き増加している。(表3-8、図3-13)

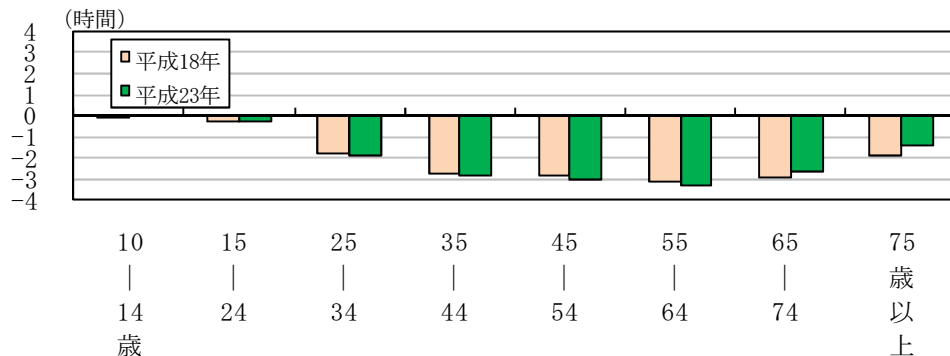
表3-8 男女、年齢階級別家事時間(平成18年、23年)一週全体

	男			女			男女差	
	平成18年	平成23年	増減 H23-H18	平成18年	平成23年	増減 H23-H18	平成18年	平成23年
総数	0.17	0.21	0.04	2.31	2.36	0.05	-2.14	-2.15
10～14歳	0.03	0.07	0.04	0.06	0.07	0.01	-0.03	0.00
15～24歳	0.04	0.12	0.08	0.18	0.28	0.10	-0.14	-0.16
25～34歳	0.05	0.06	0.01	1.53	2.01	0.08	-1.48	-1.55
35～44歳	0.10	0.12	0.02	2.53	3.01	0.08	-2.43	-2.49
45～54歳	0.21	0.10	-0.11	3.10	3.11	0.01	-2.49	-3.01
55～64歳	0.19	0.21	0.02	3.24	3.38	0.14	-3.05	-3.17
65～74歳	0.33	0.43	0.10	3.30	3.24	-0.06	-2.57	-2.41
75歳以上	0.43	0.53	0.10	2.37	2.19	-0.18	-1.54	-1.26

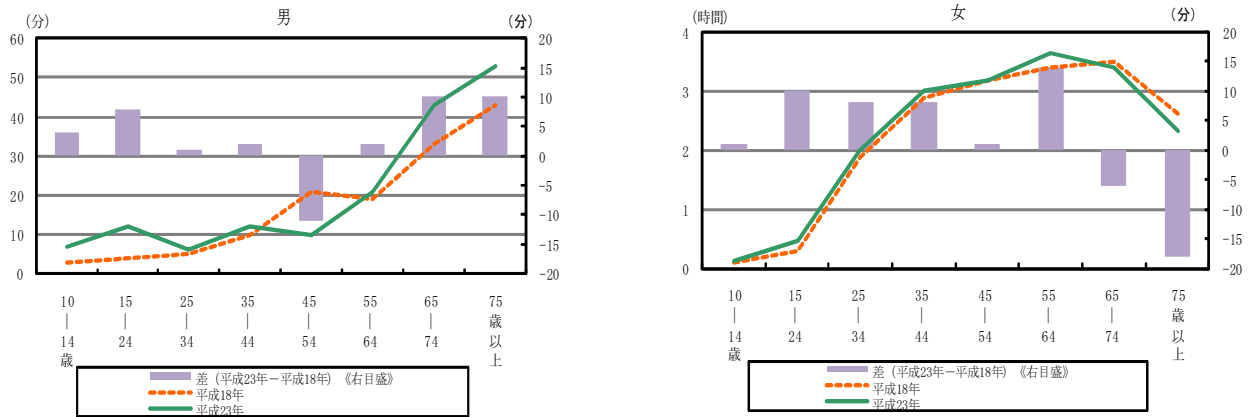
図3-13 年齢階級別家事時間、(平成18年、23年)一週全体



【参考】 年齢階級別家事時間の男女差、(平成18年、23年)一週全体



【参考】 男女、年齢階級別家事時間、（平成18年、23年）一週全体



⑦育児時間は35～44歳の女性で大幅に増加

家事関連時間のうち育児時間について、男女、年齢階級別に平成18年と比べると、女性は35～44歳で大幅な増加が見られる。一方、男性は45～74歳の年齢階級を除き、増加している。(図3-15、表3-9)

図3-15 男女、年齢階級別育児時間（平成18年、23年）一週全体

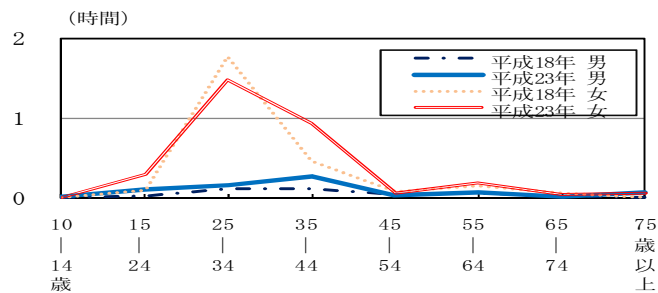
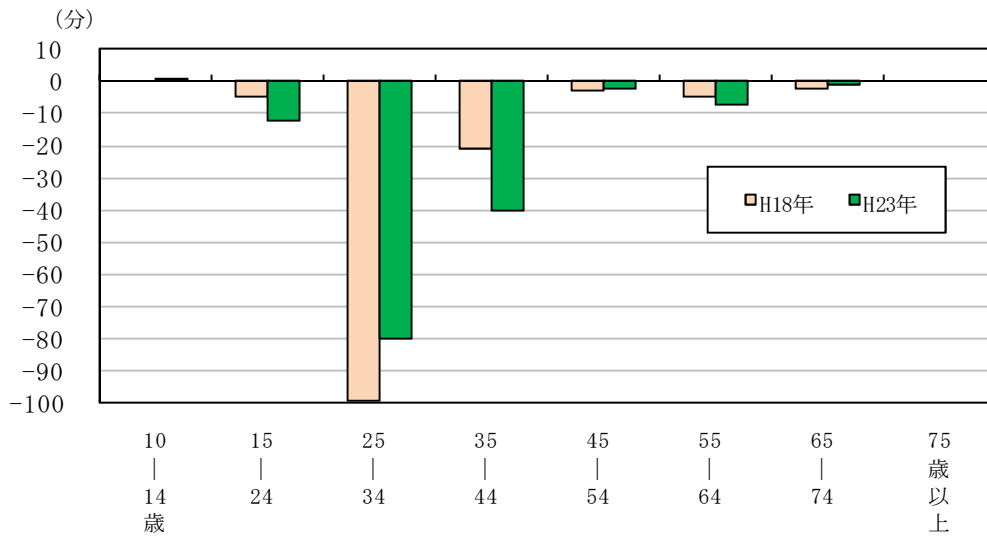


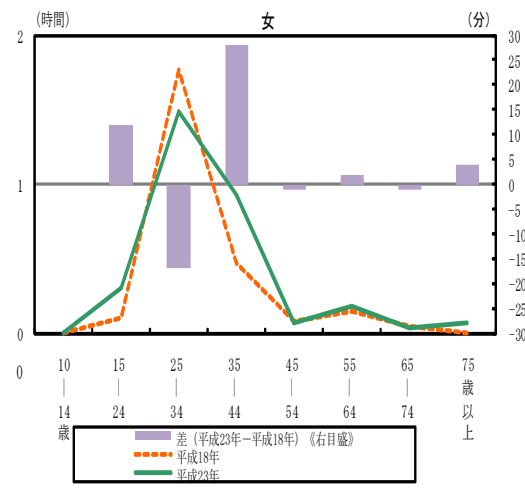
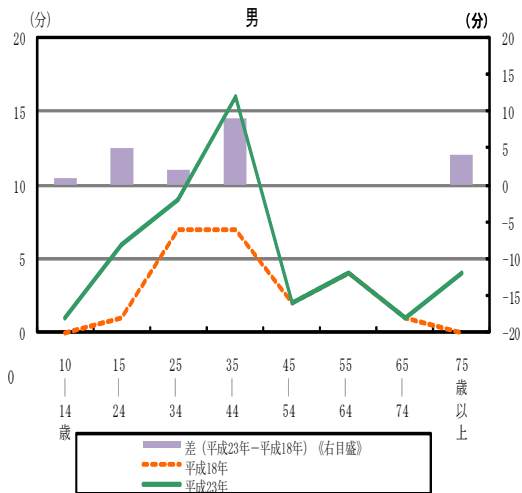
表3-9 男女、年齢階級別育児時間（平成18年、23年）一週全体

	男			女			男女差	
	平成18年	平成23年	(H23-H18)	平成18年	平成23年	(H23-H18)	平成18年	平成23年
総数	0.03	0.06	0.03	0.22	0.24	0.02	-0.19	-0.18
10～14歳	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
15～24歳	0.01	0.06	0.05	0.06	0.18	0.12	-0.05	-0.12
25～34歳	0.07	0.09	0.02	1.46	1.29	-0.17	-1.39	-1.20
35～44歳	0.07	0.16	0.09	0.28	0.56	0.28	-0.21	-0.40
45～54歳	0.02	0.02	0.00	0.05	0.04	-0.01	-0.03	-0.02
55～64歳	0.04	0.04	0.00	0.09	0.11	0.02	-0.05	-0.07
65～74歳	0.01	0.01	0.00	0.03	0.02	-0.01	-0.02	-0.01
75歳以上	0.00	0.04	0.04	0.00	0.04	0.04	0.00	0.00

【参考】 年齢階級別育児時間の男女差、（平成18年、23年）一週全体



【参考】 男女、年齢階級別育児時間、（平成18年、23年）一週全体



4 3次活動

(1) 休養等自由時間活動

①休養等自由時間活動の時間は15～34歳、45～54歳を除く全ての年齢階級で男性が女性より長い

休養等自由時間活動の時間は3時間56分で、このうちテレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間は2時間28分となっている。(図4-1、表4-1)

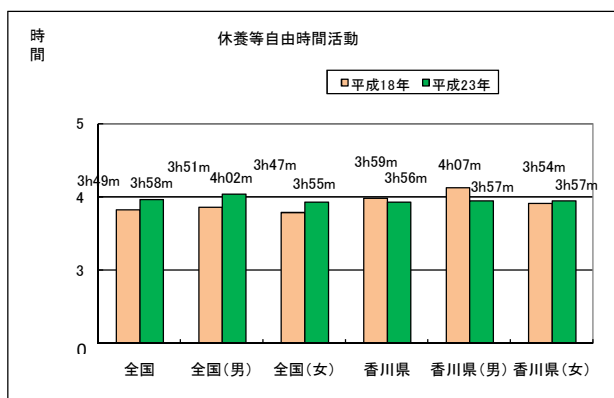
男女、年齢階級別にみると、15～24歳、65～74歳で男女の間に大きな差が見られ、15～24歳では女性が54分、65～74歳では男性が58分長く、両者に大きな差が見られる。(図4-2、表4-1)

②休養等自由時間活動の時間は25～44歳、75歳以上を除く全ての年齢階級で5年前より減少

休養等自由時間活動の時間を平成18年と比べると、3分の減少となっており、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間が7分の減少となっている。(表4-1)

年齢階級別にみると、25～44歳、75歳以上を除き減少となっている。(表4-1)

図4-1 休養等自由時間活動の時間
(平成18年、23年)一週全体



*データラベルの値は時間・分

図4-2 男女、年齢階級別休養等自由時間活動の時間一週全体

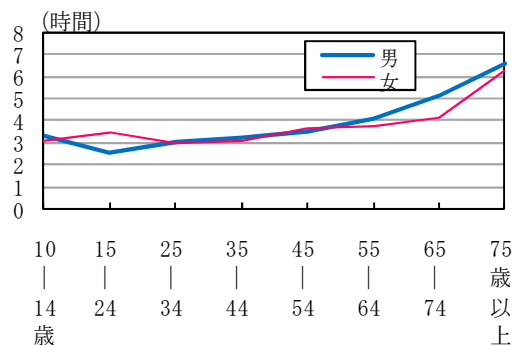


表4-1 男女、年齢階級別休養等自由時間活動の時間 (平成18年、23年)一週全体

	総数			男			女			男女差
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成23年
休養等自由時間活動	3.59	3.56	-0.03	4.07	3.57	-0.10	3.54	3.57	0.03	0.00
テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	2.35	2.28	-0.07	2.41	2.31	-0.10	2.31	2.26	-0.05	0.05
休養・くつろぎ	1.24	1.28	0.04	1.26	1.26	0.00	1.23	1.31	0.08	-0.05
休養等自由時間活動										
10～14歳	3.19	3.10	-0.09	3.06	3.16	0.10	3.33	3.04	-0.29	0.12
15～24歳	3.02	2.57	-0.05	2.58	2.31	-0.27	3.07	3.25	0.18	-0.54
25～34歳	3.00	3.00	0.00	3.14	2.59	-0.15	2.47	3.01	0.14	-0.02
35～44歳	3.06	3.11	0.05	3.10	3.15	0.05	3.02	3.06	0.04	0.09
45～54歳	3.35	3.34	-0.01	3.44	3.32	-0.12	3.27	3.36	0.09	-0.04
55～64歳	4.12	3.54	-0.18	4.28	4.04	-0.24	3.56	3.46	-0.10	0.18
65～74歳	5.08	4.36	-0.32	5.38	5.07	-0.31	4.44	4.09	-0.35	0.58
75歳以上	6.22	6.24	0.02	6.49	6.36	-0.13	6.04	6.17	0.13	0.19

図4-3 年齢階級別休養等自由時間活動の時間（平成18年、23年）一週全体

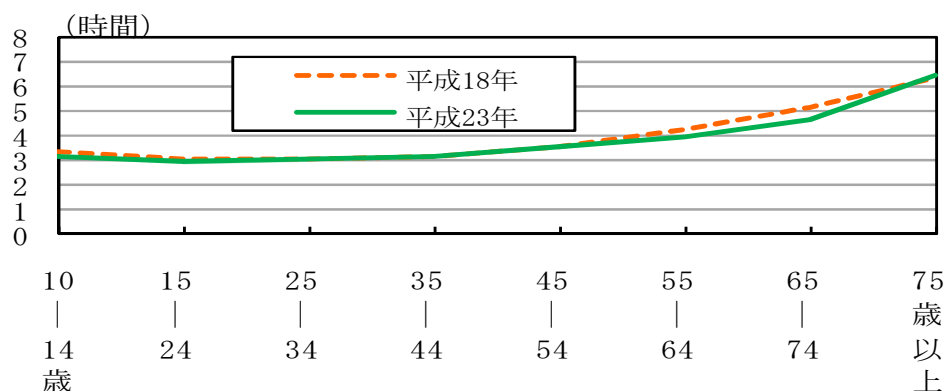
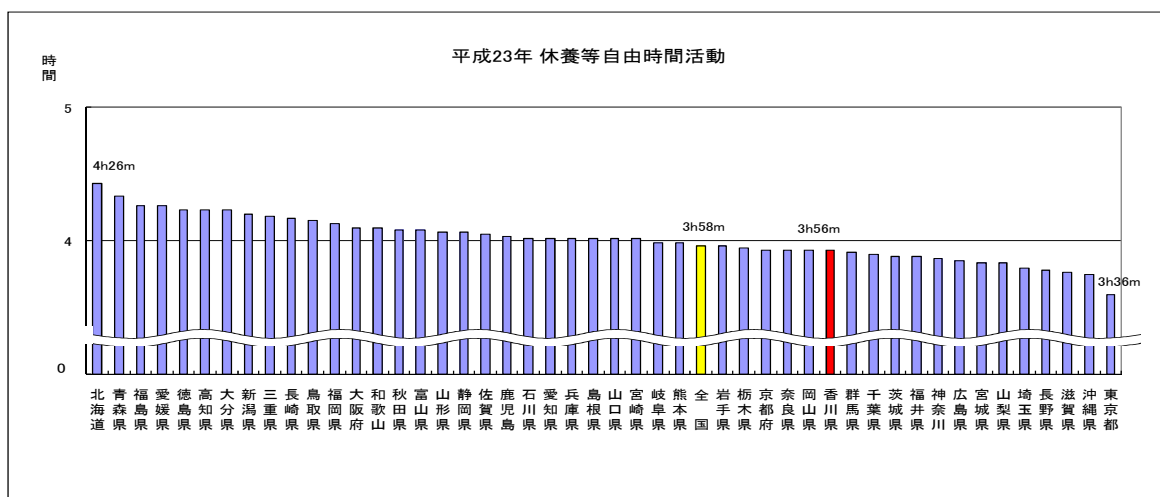


図4-4 都道府県別休養等自由時間活動



*データラベルの値は時間・分

(2) 積極的自由時間活動

①積極的自由時間活動の時間は男性が女性より長い

積極的自由時間活動の時間は1時間10分で、このうち趣味・娯楽の時間は41分と最も長く、次いでスポーツ、学習・自己啓発・訓練（学業以外）などとなっている。（図4-5、表4-2）

男女別にみると、男性が1時間25分、女性は56分と男性が29分長くなっている。（図4-5、表4-2）

これを年齢階級別にみると、男性が10歳～24歳、女性は10歳～14歳で2時間以上となっている。（図4-7、表4-2）

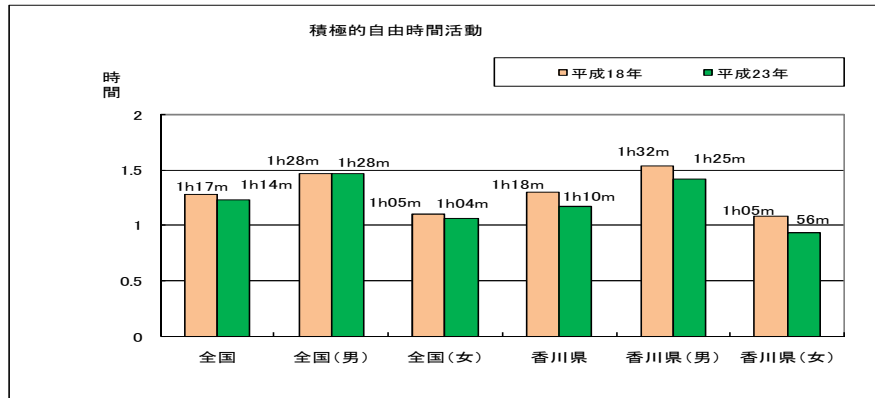
②積極的自由時間活動の時間は65～74歳を除く全ての年齢階級で5年前より減少

積極的自由時間活動の時間を平成18年と比べると、8分の減少となっており、全ての項目で減少している。（図4-5、表4-2）

年齢階級別にみると、65～74歳を除く全ての年齢階級で減少している。（図4-8、表4-2）

注) 積極的自由時間とは学習・研究、趣味・娯楽、スポーツ、ボランティア活動・社会参加活動を言う。

図4-5 積極的自由時間活動の時間一週全体



*データラベルの値は時間・分

図4-6 男女、年齢階級別積極的自由時間活動の時間一週全体

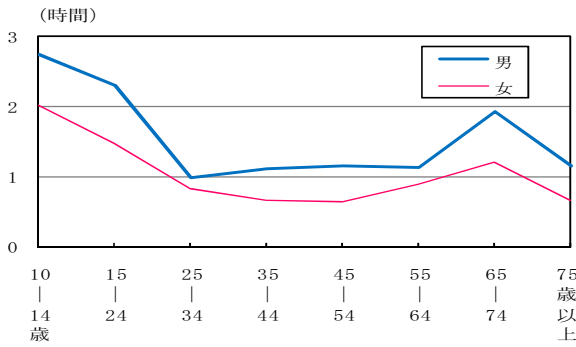


図4-7 年齢階級別積極的自由時間活動の時間(平成18年、23年)一週全体

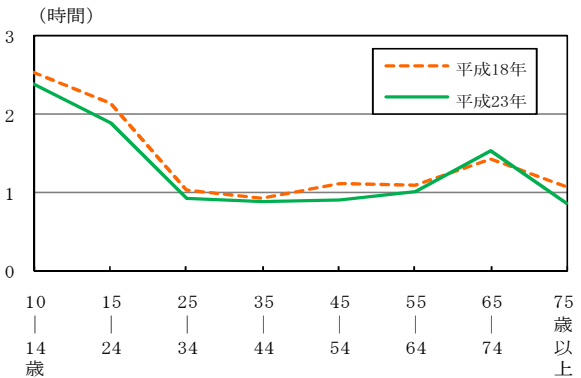


表4-2 男女、年齢階級別積極的自由時間活動の時間(平成18年、23年)一週全体

	(時間・分)									
	総数			男			女			男女差
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成23年
積極的自由時間活動	1.18	1.10	-0.08	1.32	1.25	-0.07	1.05	0.56	-0.09	0.29
学習・自己啓発・訓練(学業以外)	0.11	0.10	-0.01	0.12	0.11	-0.01	0.11	0.10	-0.01	0.01
趣味・娯楽	0.45	0.41	-0.04	0.52	0.49	-0.03	0.38	0.34	-0.04	0.15
スポーツ	0.15	0.14	-0.01	0.21	0.19	-0.02	0.10	0.09	-0.01	0.10
ボランティア活動・社会参加活動	0.07	0.05	-0.02	0.07	0.06	-0.01	0.06	0.03	-0.03	0.03
積極的自由時間活動										
10～14歳	2.32	2.23	-0.09	2.43	2.44	0.01	2.20	2.01	-0.19	0.43
15～24歳	2.08	1.53	-0.15	2.11	2.18	0.07	2.05	1.28	-0.37	0.50
25～34歳	1.02	0.55	-0.07	1.16	0.59	-0.17	0.48	0.49	0.01	0.10
35～44歳	0.55	0.53	-0.02	1.03	1.07	0.04	0.47	0.39	-0.08	0.28
45～54歳	1.07	0.54	-0.13	1.23	1.09	-0.14	0.50	0.38	-0.12	0.31
55～64歳	1.05	1.00	-0.05	1.18	1.08	-0.10	0.53	0.53	0.00	0.15
65～74歳	1.26	1.32	0.06	1.48	1.55	0.07	1.09	1.12	0.03	0.43
75歳以上	1.04	0.52	-0.12	1.33	1.09	-0.24	0.44	0.39	-0.05	0.30

図4-10 年齢階級別交際・付き合いの時間（平成18年、23年）一週全体

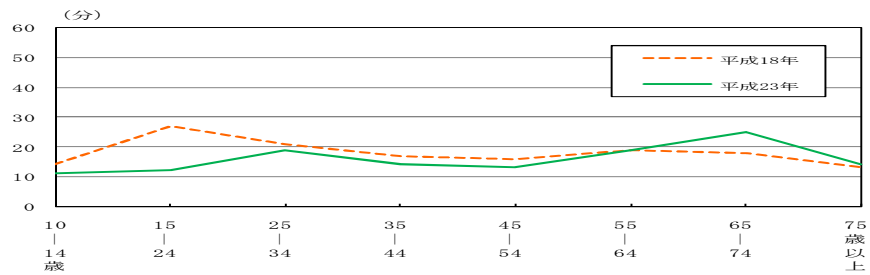
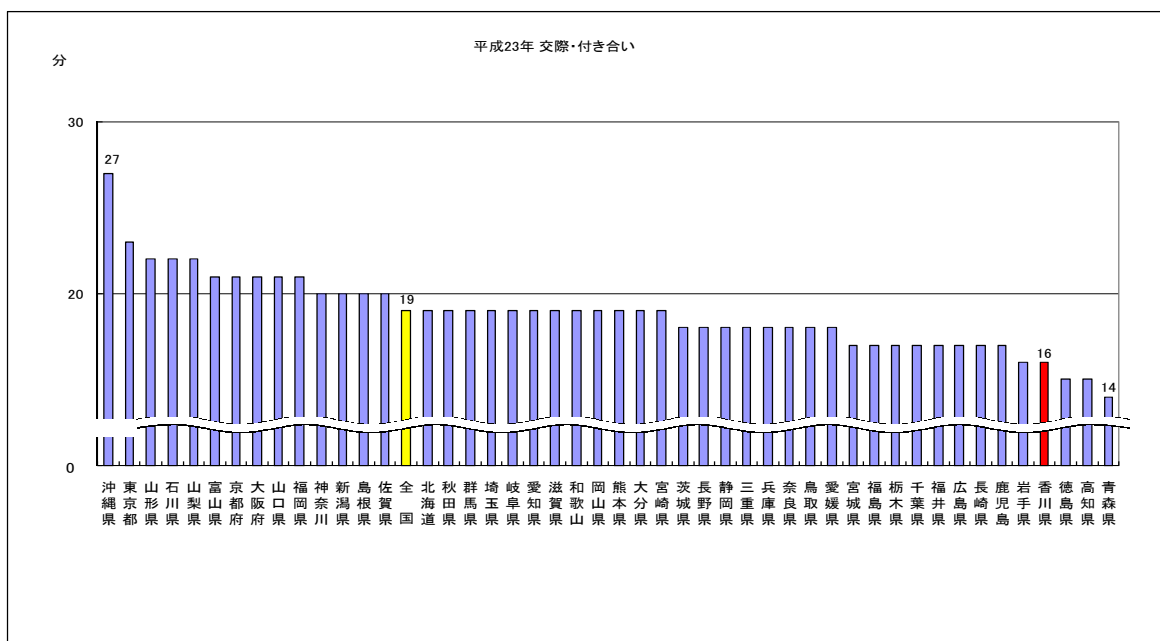


表4-3 男女、年齢階級別交際・付き合いの時間（平成13年、18年、23年）一週全体

(分)

	総数			男			女		
	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減	平成18年	平成23年	増減
			H23-H18			H23-H18			H23-H18
総数	18	16	-2	18	15	-3	18	18	0
10～14歳	14	11	-3	18	10	-8	11	12	1
15～24歳	27	12	-15	21	14	-7	32	10	-22
25～34歳	21	19	-2	16	15	-1	26	23	-3
35～44歳	17	14	-3	21	20	-1	13	9	-4
45～54歳	16	13	-3	21	12	-9	10	14	4
55～64歳	19	19	0	16	12	-4	21	25	4
65～74歳	18	25	7	14	23	9	16	22	6
75歳以上	13	14	1	17	10	-7	15	24	8

図4-11 都道府県別交際・付き合い



付録

都道府県別にみた生活時間・平均時刻（総務省 生活時間に関する結果「結果の概要」からの抜粋）

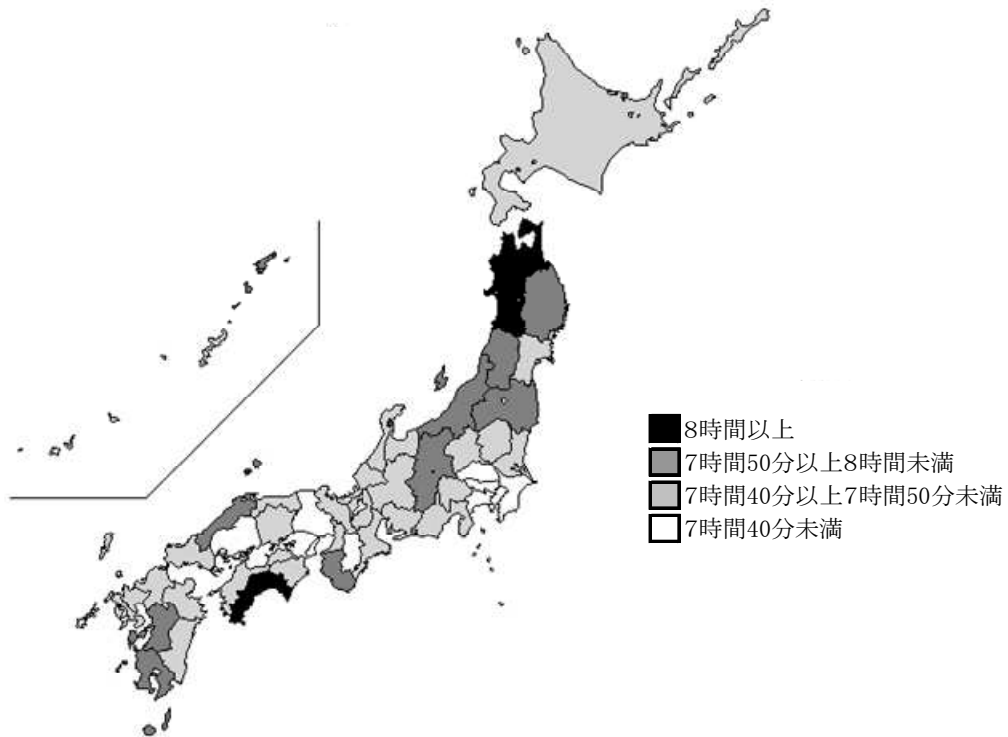
(1) 1次活動

睡眠時間が長い東北地方

睡眠時間を都道府県別にみると、秋田県が8時間2分と最も長く、次いで青森県が8時間1分などとなっており、東北地方で長くなっている。

一方、睡眠時間は神奈川県が7時間31分と最も短く、次いで奈良県が7時間33分、千葉県及び兵庫県が7時間34分などとなっている。（図7-1，表7-1）

図7-1 都道府県別睡眠時間一週全体



(時間.分)	
	睡眠時間
全国	7.42
北海道	7.48
東北	7.55
関東Ⅰ	7.35
関東Ⅱ	7.47
北陸	7.49
東海	7.42
近畿Ⅰ	7.39
近畿Ⅱ	7.41
山陰	7.50
山陽	7.40
四国	7.48
北九州	7.46
南九州	7.50
沖縄	7.42

表7-1 14 地域別睡眠時間一週全体

注) 「東北」…青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県
「関東Ⅰ」…埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県
「関東Ⅱ」…茨城県, 栃木県, 群馬県, 山梨県, 長野県
「北陸」…新潟県, 富山県, 石川県, 福井県
「東海」…岐阜県, 静岡県, 愛知県, 三重県
「近畿Ⅰ」…京都府, 大阪府, 兵庫県
「近畿Ⅱ」…滋賀県, 奈良県, 和歌山県
「山陰」…鳥取県, 島根県
「山陽」…岡山県, 広島県, 山口県
「四国」…徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県
「北九州」…福岡県, 佐賀県, 長崎県, 大分県
「南九州」…熊本県, 宮崎県, 鹿児島県

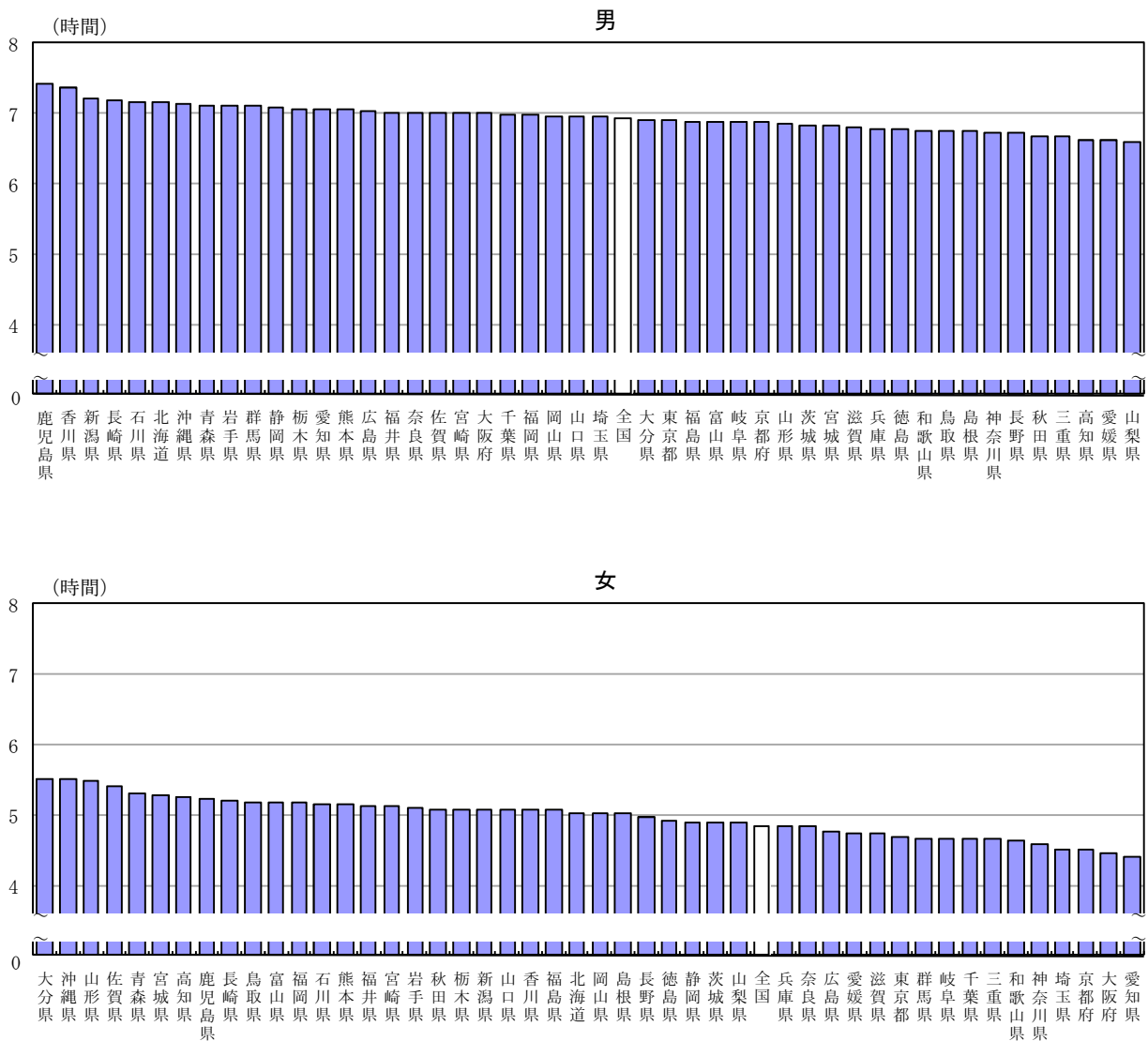
(2) 2次活動

①有業者の仕事時間が長いのは、男性は鹿児島県、女性は大分県

有業者について、仕事時間を都道府県別にみると、男性は鹿児島県が7時間 25 分と最も長く、次いで香川県が7時間 22 分、新潟県が7時間 13 分などとなっている。女性は大分県が5時間 31 分と最も長く、次いで沖縄県が5時間 30 分、山形県が5時間 29 分などとなっている。

一方、仕事時間が短いのは、男性は山梨県が6時間 36 分と最も短く、次いで愛媛県が6時間 37 分、高知県が6時間 38 分などとなっている。女性は愛知県が4時間 25 分と最も短く、次いで大阪府が4時間 27 分、京都府が4時間 31 分などとなっている。(図7-2)

図7-2 男女、都道府県別仕事時間一週全体、有業者



②通勤・通学時間が長い関東大都市圏

平日における雇用されている人について、通勤・通学時間を男女、10 大都市圏・10 大都市圏以外別にみると、男女共に関東大都市圏（男性1時間 32 分、女性1時間4分）が最も長く、次いで近畿大都市圏（男性1時間 18 分、女性54分）などとなっている。

一方、男女共に新潟大都市圏（男性 48 分、女性 38 分）が最も短くなっている。（図7-3、表7-2）

図7-3 男女、10 大都市圏・10 大都市圏以外別通勤・通学時間—平日、雇用されている人

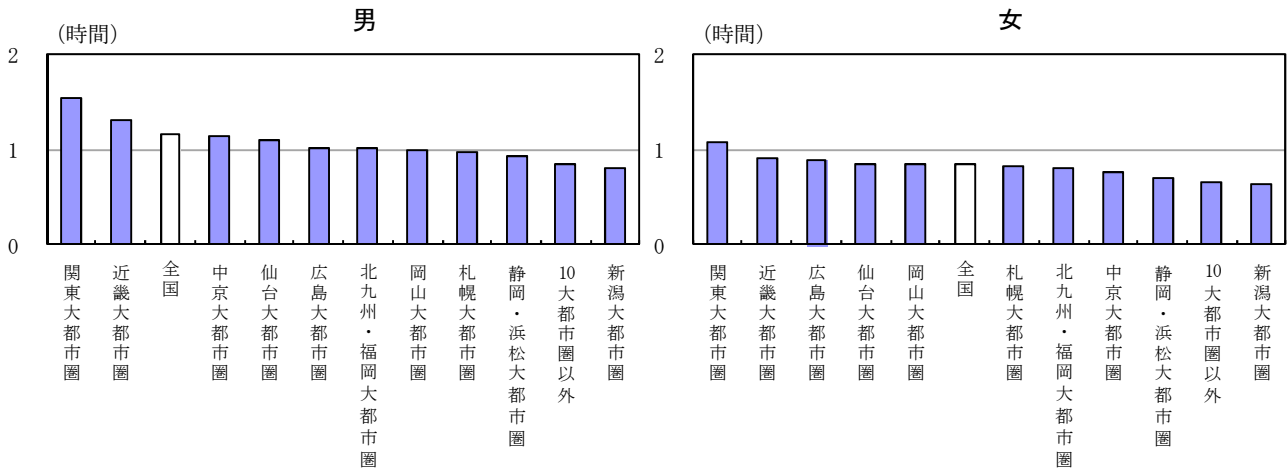


表7-2 男女、10 大都市圏・10 大都市圏以外別通勤・通学時間—平日、雇用されている人

	(時間.分)											
	全国	札幌	仙台	関東	新潟	静岡・浜松	中京	近畿	岡山	広島	北九州・福岡	10大都市圏以外
男	1.10	0.58	1.06	1.32	0.48	0.56	1.08	1.18	0.59	1.01	1.01	0.51
女	0.50	0.49	0.51	1.04	0.38	0.42	0.45	0.54	0.51	0.53	0.48	0.39

③6歳未満の子供がいる夫（夫婦と子供の世帯）の家事関連時間は秋田県が最も長い

6歳未満の子供がいる夫（夫婦と子供の世帯）について、家事関連時間を都道府県別にみると、秋田県が1時間 44 分と最も長く、次いで岩手県及び埼玉県が1時間 37 分、島根県が1時間 36 分などとなっている。（表7-3）

表7-3 都道府県別夫と妻の家事関連時間
一週全体、6歳未満の子供がいる夫・妻（夫婦と子供の世帯）

		夫	妻
順位	都道府県	家事 関連時間 (時間.分)	家事 関連時間 (時間.分)
	全国	1.07	7.41
1	秋田県	1.44	7.37
2	岩手県	1.37	8.10
2	埼玉県	1.37	8.06
4	島根県	1.36	6.43
5	徳島県	1.33	7.28

(3) 3次活動

テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間が長い北海道

テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間を都道府県別にみると、北海道が2時間47分と最も長く、次いで青森県及び徳島県が2時間43分、愛媛県が2時間42分、福島県が2時間40分などとなっている。

一方、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間は東京都が2時間10分と最も短く、次いで滋賀県が2時間12分、福井県が2時間18分、埼玉県及び長野県が2時間19分などとなっている。(表7-4)

表7-4 都道府県別テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の時間一週全体

順位	都道府県	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌時間 (時間.分)	順位	都道府県	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌時間 (時間.分)
	全国	2.27	24	岐阜県	2.28
1	北海道	2.47	24	香川県	2.28
2	青森県	2.43	26	栃木県	2.27
2	徳島県	2.43	26	石川県	2.27
4	愛媛県	2.42	26	広島県	2.27
5	福島県	2.40	26	鹿児島県	2.27
6	大分県	2.39	30	宮城県	2.26
7	三重県	2.38	30	秋田県	2.26
7	長崎県	2.38	30	奈良県	2.26
9	和歌山県	2.36	33	岩手県	2.25
9	高知県	2.36	33	山梨県	2.25
11	大阪府	2.35	33	岡山県	2.25
11	山口県	2.35	36	茨城県	2.24
13	静岡県	2.34	36	千葉県	2.24
14	山形県	2.33	36	京都府	2.24
14	新潟県	2.33	39	群馬県	2.23
14	福岡県	2.33	40	神奈川県	2.22
17	愛知県	2.32	40	島根県	2.22
18	富山県	2.31	40	沖縄県	2.22
18	鳥取県	2.31	43	埼玉県	2.19
18	宮崎県	2.31	43	長野県	2.19
21	兵庫県	2.30	45	福井県	2.18
21	佐賀県	2.30	46	滋賀県	2.12
21	熊本県	2.30	47	東京都	2.10

(4) 地域別にみた主な行動の平均時刻

①平日の就寝時刻が最も早いのは青森県及び秋田県で、最も遅い東京都との差は1時間6分

平日における主な行動の平均時刻を都道府県別にみると、起床時刻は、青森県が6時19分と最も早く、最も遅い東京都の6時52分との差は33分となっている。

朝食開始時刻は、静岡県が6時58分と最も早く、最も遅い沖縄県の7時21分との差は23分となっている。

夕食開始時刻は、青森県が18時39分と最も早く、最も遅い沖縄県の19時21分との差は42分となっている。

就寝時刻は、青森県及び秋田県が22時35分と最も早く、最も遅い東京都の23時41分との差は1時間6分となっている。(表7-5)

表 7-5 都道府県別主な行動の平均時刻及び行動者率—平日

起床				朝食開始			
順位	都道府県	平均時刻 (時:分)	行動者率 (%)	順位	都道府県	平均時刻 (時:分)	行動者率 (%)
	全国	6:37	99.4		全国	7:10	84.0
1	青森県	6:19	99.6	1	静岡県	6:58	86.0
2	岩手県	6:22	98.8	2	青森県	7:00	86.7
2	新潟県	6:22	99.5	2	福島県	7:00	86.9
2	島根県	6:22	99.0	4	岐阜県	7:01	88.5
5	秋田県	6:23	99.2	4	宮崎県	7:01	87.1
43	福岡県	6:44	99.7	43	京都府	7:18	86.2
44	神奈川県	6:45	99.0	43	福岡県	7:18	82.9
45	大阪府	6:49	99.4	45	東京都	7:19	79.7
46	京都府	6:51	99.5	45	大阪府	7:19	81.8
47	東京都	6:52	99.2	47	沖縄県	7:21	79.8

夕食開始				就寝			
順位	都道府県	平均時刻 (時:分)	行動者率 (%)	順位	都道府県	平均時刻 (時:分)	行動者率 (%)
	全国	19:06	90.8		全国	23:15	99.5
1	青森県	18:39	92.0	1	青森県	22:35	99.9
2	北海道	18:46	89.0	1	秋田県	22:35	99.3
2	秋田県	18:46	91.7	3	山形県	22:43	99.2
4	和歌山県	18:48	93.0	4	岩手県	22:45	98.8
5	岐阜県	18:49	93.5	5	福島県	22:47	99.4
5	三重県	18:49	92.1	43	京都府	23:25	99.3
5	愛媛県	18:49	93.0	44	福岡県	23:26	99.8
5	高知県	18:49	93.5	45	大阪府	23:32	99.2
43	埼玉県	19:13	89.9	46	神奈川県	23:36	99.4
44	千葉県	19:16	89.3	47	東京都	23:41	99.3
45	神奈川県	19:18	90.5				
46	東京都	19:20	87.3				
47	沖縄県	19:21	87.8				

②平日の仕事からの帰宅時刻が最も遅いのは東京都で、最も早い徳島県との差は1時間43分

平日における有業者について、平均出勤時刻及び仕事からの平均帰宅時刻を都道府県別にみると、出勤時刻は、青森県が8時4分と最も早く、最も遅い京都府の8時43分との差は39分となっている。

仕事からの帰宅時刻は、徳島県が18時2分と最も早く、最も遅い東京都の19時45分との差は1時間43分となっている。(表7-6)

表 7-6 都道府県別主な行動の平均時刻及び行動者率—平日, 有業者

出勤				仕事からの帰宅			
順位	都道府県	平均時刻 (時:分)	行動者率 (%)	順位	都道府県	平均時刻 (時:分)	行動者率 (%)
	全国	8:26	84.7		全国	18:56	84.7
1	青森県	8:04	86.5	1	徳島県	18:02	85.6
2	静岡県	8:05	88.1	2	青森県	18:06	86.5
3	佐賀県	8:12	87.5	3	愛媛県	18:13	83.2
4	新潟県	8:13	88.1	4	島根県	18:14	85.0
4	和歌山県	8:13	86.5	5	和歌山県	18:17	86.5
4	徳島県	8:13	85.6	43	宮城県	19:06	86.7
4	香川県	8:13	87.7	44	埼玉県	19:18	83.6
4	大分県	8:13	87.5	45	千葉県	19:27	82.5
43	東京都	8:37	83.6	46	神奈川県	19:29	80.1
44	高知県	8:41	84.9	47	東京都	19:45	83.6
44	福岡県	8:41	86.3				
44	宮崎県	8:41	86.6				
47	京都府	8:43	85.2				